



**YANMAR**

# CSR報告書 2014

Corporate Social Responsibility Report



Top Message

トップメッセージ



代表取締役社長

山内健人

ヤンマーグループのCSRはミッションステートメントの実践そのものです。「Solutioneering」を通じて、お客様の期待を超えた感動や喜びを提供することで、ステークホルダーの価値を高め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## ミッションステートメントのもと プレミアムブランド化を進化させます

ヤンマーグループは、次の100年に向けた新たな成長戦略への取り組みをスタートしました。ヤンマーの持つエンジニアリング力とマーケティングをベースとした課題解決提案「Solutioneering」を原動力に、社員一人ひとりがおお客様の期待を超えた感動や喜びを提供していくことで、お客様に真の満足をお届けしていきたい。そして、産業そのものの価値を高め、プレミアムなフィールドに進化させていきたいと考えています。

2013年7月から本格的に活動を進めている「ヤンマープレミアムブランドプロジェクト」も、変化の激しい市場において、ヤンマーがさらに成長していくための「幹」となる活動です。ミッションステートメントのもと、プレミアムブランド化をさらに進化させ、世界中のお客様との接点を拡大していかなければなりません。この活動に基づく商品やサービスを通じてお客様に感動と喜びを提供していくことで、この「幹」をさらに太いものにしてまいります。

また、当社が世の中に存在する意義、果たすべき社会的使命を宣言した「ミッションステートメント」は、全グループ社員が、常に使命感と高い誇りを持って仕事に取り組んで欲しいという思いを込め、社員と一緒に作り上げたものです。ヤンマーグループのCSRは、まさにこのミッションステートメントの実践そのものだと考えています。

## ミッションステートメントの実践が CSR活動の推進につながっています

ヤンマーグループが担う「食料生産」と「エネルギー変換」の分野ではさまざまな社会課題が山積しています。人口増加、食料不足、CO<sub>2</sub>増加を含む地球環境問題などが挙げられます。当社は事業活動を行ううえで、こうした社会課題を解決する視点を取り入れながらビジネスを進めており、ミッションステートメントの実践がまさにCSR活動の推進につながっています。

ヤンマーグループでは、地球環境の保全を経営方針における重要課題の一つと位置付け、環境経営の推進、自然との共生を基本とした事業活動を進めています。また、2020年度

をゴールとする「環境ビジョン2020」を策定し、地球温暖化防止に向けた温室効果ガスの削減や、資源循環型社会実現に向けた廃棄物の削減、リサイクルの促進に継続的に取り組んでいます。

産業用ディーゼルエンジン排出ガス規制「Tier4」対応の小形ディーゼルエンジンの開発・販売など既存領域の深耕はもちろん、バイオマス発電などの新規領域にも挑戦し、さまざまな環境問題解決に挑戦していきます。

また、ヤンマーグループが事業活動を行う世界各地の地域や社会の維持・発展に、これまで以上に貢献してまいります。2011年3月に発生した東日本大震災から3年を経過しましたが、今なお仮設住宅で過ごされている被災者の方々も大勢おられます。ヤンマーグループといたしましても、引き続き継続的な支援を行ってまいりたいと考えています。

## 本社移転を機に次の100年に向けて さらなる発展を目指してまいります

一方、ヤンマーグループの成長を加速するための商品開発・システム導入、人財育成など戦略的な投資も実施してまいります。商品開発・システム導入では、インドネシアで海外初の鋳造部品工場を、また、中国では立形水冷エンジンの生産ラインをそれぞれ稼働させています。人財育成では、グループ社員が働きがいと誇りを持てるよう、社内公募制度「ヤンマー・ドリカム (Yanmar Dreams Come True) 制度」や、能力開発プログラム「キャリア・デベロップメント・プログラム (CDP) 制度」を導入し、柔軟かつ計画的な人材の配置と交流を行っています。

2014年10月、大阪市北区茶屋町にヤンマーグループの新本社ビルが竣工しました。当社製の高気密高断熱エアコン (GHP) やガスコージェネレーションシステム、太陽光発電や壁面緑化、さらには自社開発中の新技術発電システムなど最新の環境設備を導入し、ビル全体のCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減するとともに、中間層免震構造など最先端の防災設計も採用しています。

ヤンマーグループは、この新本社ビルを拠点とし、地域や社会に愛される企業を目指してまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# Mission Statement

ミッションステートメント

わたしたちは

自然と共生し

いのち  
生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。



## CONTENTS

00	トップメッセージ
02	ミッションステートメント
04	ヤンマーグループのCSR
06	ヤンマーグループの事業領域

## Feature

10		<b>1</b> 環境と防災に配慮した本社ビル 「YANMAR FLYING-Y BUILDING」 次の100年に向け出航
14		<b>2</b> アジアでの「Solutioneering」を支える ヤンマーグループの生産体制
18		<b>3</b> 「Solutioneering」で世界最高水準の 小形ディーゼルエンジンを開発

## ブランドステートメント



### Solutioneering Together

ブランドステートメントは、ヤンマーグループのミッションステートメントを時代に応じて簡潔に表し、社内外に伝えるものです。YANMARブランドの提供価値や企業活動の方向性をお客様に約束するものです。

## グループビジョン



お客様が得る生涯価値を最大にすることでお客様のゆるぎない信頼を獲得する。

ミッションステートメントと事業・部門の任務とビジョンをつなぐものであり、ヤンマーグループが目指すべき目標像とお客様への価値提供の姿勢を示しています。

## 創業者の精神



美しき世界は感謝の心から

### 燃料報国

創業者の精神とは、ヤンマーの企業活動の原点であり、創業者から代々受け継がれ、未来へ引き継ぐべきヤンマーのDNAです。

## 行動指針 (YANMAR11)

ヤンマーグループ全役員・社員を対象とする



1. お客様にとっての価値を自問自答し、最適なソリューションを提供せよ。
2. 現場、現物、現実を直視せよ。
3. 結果を出すことに執念を持て。
4. 受身になるな。  
自らが活動の起点となれ。
5. 世界で勝てるスピードで動け。
6. 当たり前を疑え。創意工夫せよ。
7. あらゆる壁を壊せ。  
連携し、総合力を発揮せよ。
8. 同質化するな。  
異なる意見をぶつけあえ。
9. 安住するな。世界に挑め。
10. 将来目標を持て。自分を磨け。
11. 社会規範を遵守せよ。  
社会課題の解決に貢献せよ。

行動指針は、ミッションステートメントを実現するための行動や判断の指針となるものです。私たちにとって最も大切なお客様に関わる指針から始まり、自己研鑽やコンプライアンスに関する指針で締めくくっています。

## Highlight

20



**1** ミッション経営の実現に向けて

24



**2** プレミアムブランドプロジェクト

26



**3** ヤンマーミュージアム

## ヤンマーグループのCSR活動

28 組織統治

30 人権・労働慣行

32 環境

38 公正な事業慣行

40 消費者課題

42 コミュニティ参画・発展

48 会社概要／編集にあたって

# CSR of Yanmar Group

## ヤンマーグループのCSR

ヤンマーグループのCSRは、「食料生産」と「エネルギー変換」の分野で、世界最先端のエンジニアリング力と大胆な企画・提案による「Solutioneering」を通じて、お客様の課題を解決し、未来につながる社会とより豊かな暮らしを実現していくことです。これは、当社のミッションステートメントの実践そのものであり、CSR活動の推進を通して、多様なステークホルダーの価値を高め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 未来につながる社会と

ヤンマーが担う分野

社会課題の

### 生命の根幹を担う分野



#### 食料生産

農作業の機械化・省力化をテーマに、稲作や畑作、酪農など農業全般で低コストおよび高能率な作業実現のためのソリューションを提供し、食と暮らしを支える取り組みを進めています。



#### エネルギー変換

省エネで環境に配慮した電気推進システムやエンジン開発、コージェネやGHPなどエネルギーシステムの普及を通して、より豊かな暮らしの実現に取り組んでいます。

### ヤンマーを取り巻く ステークホルダー

ヤンマーグループでは、さまざまなステークホルダー（利害関係を有する方々）との対話を行いながら、ミッションステートメントの実践を通して、持続可能な社会の創造と発展に貢献していきます。



#### お客様

お客様の課題を解決する安全で高品質な商品・サービスを迅速に開発・提供し、お客様に信頼いただけるよう努めています。



#### 従業員

従業員一人ひとりの個性と多様性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりと、グローバル人材の育成を進めています。

# より豊かな暮らしを実現

解決に貢献

ヤンマーの強み

S o l u t i o n e e r i n g



## 大胆な企画・提案力

お客様の期待を超えた感動や喜びを提供し、  
真の満足をお届けするため、社員一人ひとりが自発性と創造性を持って  
お客様に最適なソリューションを提供しています。



## 世界最先端のエンジニアリング力

世界初の小形ディーゼルエンジンの開発・実用化に成功した  
創業者のDNAを受け継ぎ、これまで培ってきた  
世界最高レベルの技術力でお客様の課題を解決していきます。



### ビジネスパートナー

国内外の販売店・特約店、サプライヤーとのコミュニケーションを深め、良好なパートナーシップを構築しています。



### 地域社会

「地域社会と共に歩み、共に生きる」ため、地域の課題解決に向け、住民と一緒にさまざまな活動に取り組んでいます。



### 環境

持続可能な社会の実現に向け、地球温暖化防止や、資源の有効活用、環境負荷物質の低減、生物多様性に取り組んでいます。

## Business Field

# ヤンマーグループの 事業領域

# 大地

Land

ヤンマーグループが対象とする事業フィールドは「大地」「海」「都市」。  
それぞれのフィールドでは、多用途の建設機械を提供する建機事業、  
省エネルギー技術の多様な展開に取り組むエネルギーシステム事業、  
オリジナリティの高い製品を開発するコンポーネント事業、  
日本とアジアを中心にグローバルに農作業を応援するアグリ事業、  
創業の原点を受け継ぐ小形エンジン事業、  
高品質で高い信頼性を誇る大形エンジン事業、海洋環境との共生を目指す  
マリン事業など7つの事業が独自の強みを発揮し、  
多彩なSolutioneeringを展開しています。

# 海

Sea

# 都市

Urban

大地  
Land

3つのフィールド  
7つの事業

海  
Sea

都市  
Urban

### 小形エンジン事業

小形産業用ディーゼルエンジンの  
バイオニアとして、業界トップクラ  
スの商品の生産・販売・開発・サー  
ビスを行っています。

●生産品：産業用小形ディーゼル  
エンジン、燃料噴射系精密部品など

### 大形エンジン事業

生産・販売・開発・サービスが一体  
となり、お客様価値向上を目指す  
ビジネスモデル(L. C. V)を展開し  
ています。

●生産品：船舶推進用/発電用  
ディーゼルエンジン、産業用(陸  
用)ディーゼルエンジン、ガスエン  
ジン、ガスタービンおよび関連シス  
テム商品

### マリン事業

マリン(業務用・プレジャー)分野にお  
いて、パワフルで安定したパフォー  
マンス、経済性と信頼性の高いエンジ  
ンを世界のマーケットに提供してい  
ます。

●生産品：中小形マリンディーゼル  
エンジンおよび関連システム商品、  
環境海洋関連商品、FRP製プレジャー  
ボート、小型漁船、活魚水槽、ポン  
プなど

### アグリ事業

I-HMT(電子制御式油圧無段変速  
トランスミッション)やICT(情報通  
信技術)を活用した農業情報の取  
集など、最新の技術を採用した製  
品群を提供しています。

●生産品：トラクター、コンバイン、  
田植機、耕うん機、管理機、農業施  
設、選果施設、無人ヘリ、農業関連  
商材など

### エネルギーシステム事業

省エネ・節電・BCPに貢献する  
コージェネやGHP、非常用発電機  
などの最適提案を実施。バイオガ  
ス等の再生可能エネルギー分野に  
も注力しています。

●生産品：コージェネ、バイオガス  
コージェネ、GHP、非常用発電シ  
ステム、ポンプ駆動システム、太陽  
光発電システムなど

### 建機事業

後方超小旋回型ショベル[ViO シ  
リーズ]や超小旋回型ショベル[Sシ  
リーズ]をはじめ、小型発電機や投  
光機など、小型建設機械をフルライ  
ンアップ展開しています。

●生産品：ショベル、ホイロー  
ダー、キャリア、小型発電機、投光  
機など

### コンポーネント事業

独自の油圧制御・歯車加工技術を  
保有し、高効率無段変速トランス  
ミッションをはじめとする差異化製  
品を供給しています。

●生産品：油圧機器、歯車、トラン  
スミッション、マリンギヤ、工作機  
械など



油圧機器



産業用小形  
ディーゼルエンジン



トランスミッション



トラクター



田植機



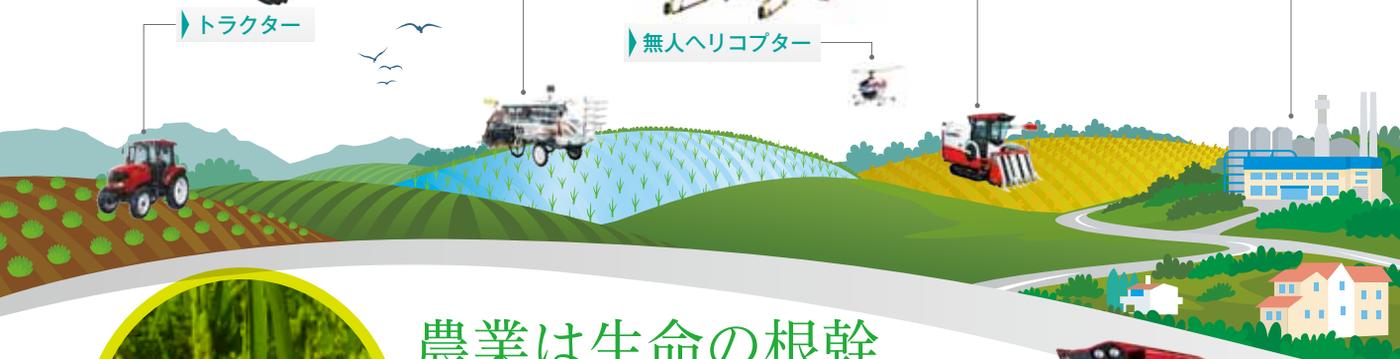
無人ヘリコプター



コンバイン



バイオマス発電  
プラント



## 農業は生命の根幹

農業は生命の根幹を支える事業ととらえ、国内ではプロ農家からホビー向け農業機械の提供、海外ではアジア諸国を中心に農作業の機械化・一貫体系化・施設化を通じて豊かな「食」の追求に取り組んでいます。

### 小形エンジン事業

立形水冷ディーゼルエンジン  
TNV シリーズ

### 世界最先端の排出ガス規制認証を 次々と取得したクリーンディーゼル

コモンレールシステム、ディーゼルパーティキュレートフィルター(DPF)およびEGR(排ガス再循環)の最適化により、EPA(米国環境保護庁)、CARB(カリフォルニア州大気資源局)、EU指令、そしてスイスの大気汚染防止法などの世界最先端の排出ガス認証を次々と取得しました。



### アグリ事業

コンバイン 新AG-R シリーズ

### 排ガス規制に対応した ハイパワーエンジンを搭載し、 大規模農業の効率化を追求

エンジンにPM(ススなどの粒子状物質)を捕集するフィルタ装置(DPF)を新たに装備。環境への配慮とパワフルさを兼ね備えたエンジンで収穫作業の効率化を実現します。

さらに、自脱6、7条刈には、ほ場ごとに米の収穫量や作業時間、燃料消費量などを測定できる機能を搭載しました。そのデータをパソコン等で集計、分析し、次年度の営農計画や作業計画に活用することで、ユーザーの農業経営の効率化にも貢献します。

### アグリ事業

田植機 新RG シリーズ RG5X・RG6X・RG7・RG8

### RGシリーズの経済性能と環境性能に 磨きをかけて、シリーズを充実

低燃費・低騒音(70dB以下)の本格プロ農家向け田植機RGシリーズに新機種を追加しました。HMTトランスミッションとの相乗効果で、ガソリンエンジン搭載機種に比べて燃料消費率を約25%低減。苗補給時にはエンジン回転を自動で低速まで下げることが可能となりました。





▶ 船舶用大形補機関

▶ マリンギヤ

▶ 中小形マリンエンジン (プレジャー)

▶ 海水ろ過施設

▶ 電気推進システム

▶ FRP船

▶ 養殖網水中洗浄機

▶ 中小形マリンエンジン (業務用)

▶ 船舶用大形主機関



## 人と海洋環境との理想的な共生

快適なマリンレジャーや、安全な航海と環境との調和を追求した船舶用エンジン・推進システムの開発、さらに、水産業における漁業の活性化や養殖技術の多面展開など、人と海洋環境との理想的な共生を目指しています。

### マリン事業

フィッシングクルーザー EX30B

### 滞在型ロングクルージングを 意識したフィッシングクルーザー

クラス最大級の幅広船型にセミウォークアラウンドデッキと斬新なデザインを採用し、ゆとりのある居住空間を実現。また、V形8気筒電子制御エンジンを搭載し、低燃費と静粛性を向上させました。



### 大形エンジン事業

船用ガスエンジン EYG26 形機関

### クリーンで高効率、 高い信頼性を備えた船用ガスエンジン

最新の空燃比制御技術の開発により、IMO (国際海事機関) 3次排ガス規制 (NOx80%削減) に適合し、船用機関に要求される変動負荷耐性を備えた高効率 (熱効率47.8%) 船用ガスエンジンを商品化します。

### マリン事業

コモンレールエンジン AYE シリーズ

### ヤンマー初のコモンレール式 業務用マリンエンジン

コモンレール式燃料噴射装置を搭載することにより、クリーン排気、低騒音、良好な始動性を達成するとともに、従来シリーズの低燃費、高トルクという特徴をさらに進化させました。また北米のEPA3次規制もクリアしました。





▶ ガスエンジン

▶ GHP

▶ 太陽光発電

▶ 工作機械

▶ ミニショベル

▶ コージェネレーションシステム

▶ 非常用発電機

▶ バルーン投光機

▶ ミニ耕うん機



## エネルギーの有効活用

官民さまざまな施設やビジネス環境、住空間が集積する都市で、再生可能エネルギーの活用や、コージェネによる電力と熱エネルギーに変換するシステムなど、次代の街づくりにふさわしいエネルギーの有効利用を目指しています。

### 建機事業

バックホー SV100-2A

### ミニコンセプトを取り入れた 10トンクラス油圧ショベル

日本初のブームスイングとブレードを標準装備(ミニコンセプト)した後方超小旋回型油圧ショベルで、さまざまな現場において安心・スムーズな作業性を発揮します。また、排ガス規制に対応したクリーンなディーゼルエンジンの搭載、低燃費を実現するオートデセル・エコモード機能の装備により高次元の環境性能を有しています。



### エネルギーシステム事業

ガスエンジンコージェネレーションシステム  
EP800G

### クラストップレベルの発電効率と 低NOxを同時に実現

停電時にもガスを使って発電が可能な当社コージェネレーションシステムのラインアップ拡充を目的として60Hz用EP800G(発電出力800kW)を開発しました。高度な制御技術により高効率・低NOx化を実現しました。

## 環境と防災に配慮した本社ビル 「YANMAR FLYING-Y BUILDING」 次の100年に向け出航

創業100周年を迎えたヤンマーは、

創業の地である大阪市北区茶屋町に新たな本社ビルを建設しました。

ヤンマー独自の最新の環境技術を導入することで、本社オフィスから排出されるCO<sub>2</sub>を大幅に削減し、将来的にはCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指します。

また、中間層免震構造をはじめとする最先端の防災設計を採用することで

強固な安全性を備えたビルとして、大規模災害が発生した際の

BCP<sup>\*</sup>の速やかな実行と、大災害時には地域への貢献を果たします。

ヤンマーは、この本社ビル建設を機に

次の100年に向けて力強く出航します。

### ※BCP

Business continuity plan(事業継続計画)の略で、災害発生時に特に重要な業務を中断させないための計画や経営戦略のことを指します。

### 「都市」「大地」「海」を テーマに、お客様との 信頼の歴史を表現

ヤンマー本社ビルのデザインは「都市」「大地」「海」をテーマとしています。人々がにぎわう交差点に対し、迫り出すように建つ外観は「都市」のエネルギーに呼応する躍動感を、最上階まで達する大きな壁面緑化は緑に覆われた「大地」を、風を受ける帆をイメージした全体の外観は「海」を表現しています。

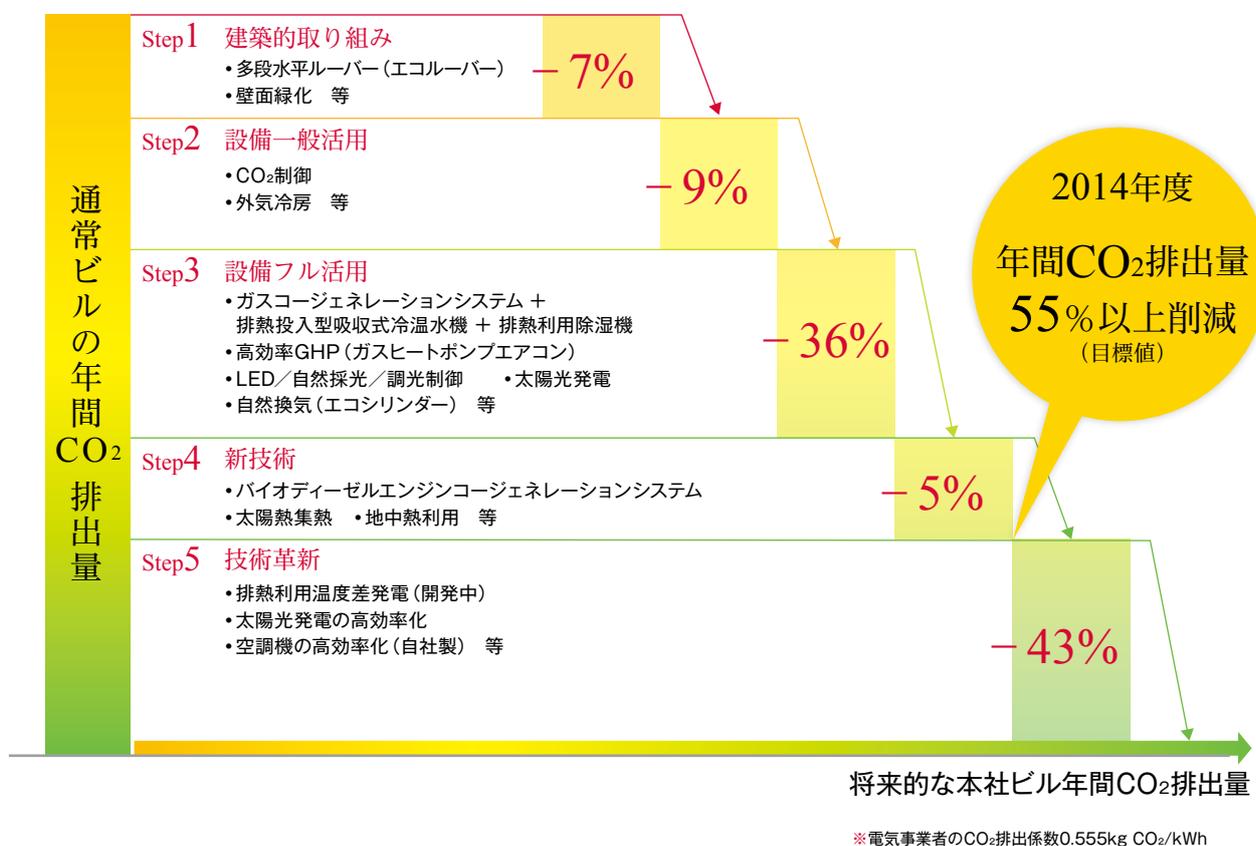
外観はできるだけシンプルにデザインし、雑然とした街並みの中で際立った存在感を示すことを意図しています。建物全体を覆う円形のルーバーは建物に陰影を与え豊かな表情をつくるとともに、地面から幾重にも積層する姿はこの茶屋町で創業以来100年以上にわたってお客様とともに積み重ねてきた信頼の歴史を表現しました。



# CO<sub>2</sub>排出ゼロの実現へ

本社ビルのオフィス部分では、年間のエネルギー消費にともなうCO<sub>2</sub>排出量を55%以上削減することを目標にしています。ガスヒートポンプエアコン（GHP）、ガスコージェネレーションシステムをはじめ、太陽熱集熱器、太陽光発電設備などの機器を組み合わせ、総合効率の高い省エネルギーシステムを構成することでCO<sub>2</sub>の大幅な削減を予定しています。本社ビルのCO<sub>2</sub>排出量は、現段階における55%以上の削減目標を足がかりに、今後の技術革新、再生可能エネルギーへの進展、および将来的な屋上全面と南側壁面への太陽光パネル増設などにより、「ゼロ・CO<sub>2</sub>エミッション・ビル（ZEB）」の実現を目指します。

## ▶CO<sub>2</sub>排出量ゼロ実現に向けたロードマップ



## 建築物の環境性能を評価する 「CASBEE大阪みらい」でSランクを取得

省資源・長寿命がテーマの本社ビルは、省エネルギーシステムのほかにも、ビル南面に設置した壁面緑化や、室内のLED照明、外壁面への直達日射を遮る庇など、さまざまな省エネ技術を導入しています。これにより、建築物の環境性能を評価するシステム「CASBEE」（キャスピー）※の大阪市版「CASBEE大阪みらい」で最高評価となるSランクを取得しました。

※「CASBEE」（キャスピー）



「CASBEE」とは、「Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency」の頭文字を取った建築物の環境性能を総合的に評価するシステムです。省エネルギー、省資源、リサイクル性能などの環境配慮だけでなく、室内環境の快適性、建築物の長寿命化、景観への配慮なども評価の対象になっており、総合評価はSランクからCランクまでの5段階になっています。



ガスヒートポンプエアコン



ガスコージェネレーションシステム

## 1 ガスコージェネレーションシステム、GHPによる高効率熱源・空調システム

オフィス階の空調や温水の熱源は、発電時の排熱を有効利用できる自社製のコージェネレーションシステムを組み合わせた構成としています。ガスエンジンに加えバイオ発電機の排熱を利用して冷温水の生成や外気の除湿を行い、併せて排熱利用温度差発電や食堂給湯にも多段利用してエネルギー総合効率を高め、CO<sub>2</sub>の大幅な削減に寄与しています。

さらに、ガスを熱源とし、エネルギー消費効率に優れた自社製のガスヒートポンプエアコン (GHP) を冷暖房に採用し、電気式エアコン (EHP) に比べ、建物の電力消費量を大幅に削減しています。本社ビルでは、合計容量3,046kWのGHPを設置しています。

## 2 太陽光発電による創エネルギー

都市型ビルにおける創エネルギーシステムでは、太陽光発電設備が最適です。特に日射障害のない屋上に太陽光発電パネルを設置することで日中の電力に利用できます。本社ビルでは、屋上の南向きに太陽光発電パネル約35kWを設置し、年間約31MWhの電力を得ることができます。



南側壁面に設置された太陽光発電パネル

## 3 ビル南側に大規模な壁面緑化を設置

本社ビルの南壁面に、幅23.7m、高さ52m、面積約1,230㎡の壁面緑化を設置し、利用者のアメニティ向上や、地域の生態系の回復、大気汚染物質の吸着、都市のヒートアイランド抑制に寄与します。地上の植栽やミスト噴霧と併せて、周囲街路への涼気のにじみ出し効果を期待しています。この壁面緑化ユニットは透過性を持つため、眺望を確保しながら日射を遮蔽し、室内の快適性と省エネルギーを両立します。また、4割程度を花の咲く地被植物とすることで、ミツバチの集蜜にも配慮しています。



壁面緑化

## 4 LED照明と自然光を組み合わせ省エネに貢献

オフィス照明は、一般的にビル全体で使用するエネルギーの約4分の1を占めるとされています。そのため、本社ビルでは、一部の設備室や特殊照明を除き、LED照明を採用し、CO<sub>2</sub>削減に貢献しています。また、ビルの窓面積を広く取り、天井を高くすることで自然光を多く取り入れる構造になっており、センサーにより照明の明るさを自動的に制御しています。



LED照明

# 5 自然を生かし熱負荷を遮る 快適な窓まわりシステム

オフィスの窓まわりは、自然光の活用と直達日射の室内侵入防止を両立させるエコーバーを採用しています。日射を取り入れる上段と、居住域の高さである下段に分けることで、採光と日射遮蔽を別々に制御することができます。また、窓下換気口からは自然換気の取り入れを行い、コミュニケーション階段（エコシリンダー）を風の通り道として、合理的に窓まわりの光と風を利用します。

エコーバー  
(アルミ)

ブラインド

遮熱高断熱 (Low-E)  
複層ガラス

床下換気口から  
自然換気  
エコシリンダーを  
風の道として利用



1 ガスコージェネレーションシステム

5 窓まわりシステム

2 太陽光発電

屋上緑化

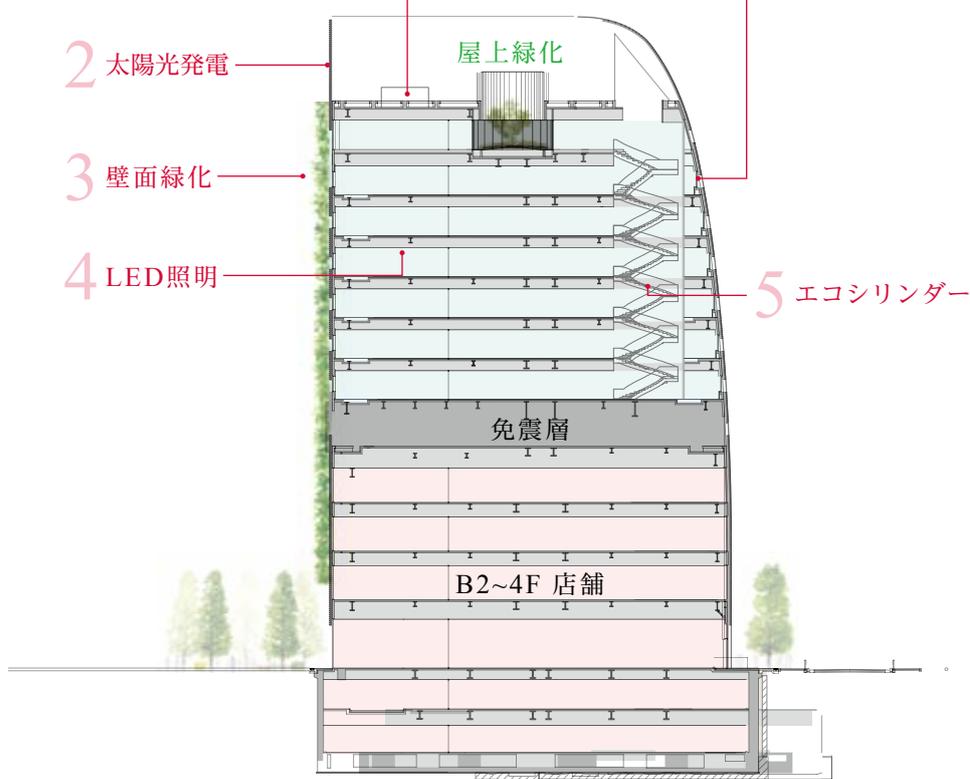
3 壁面緑化

4 LED照明

5 エコシリンダー

免震層

B2~4F 店舗



NPO 法人  
梅田ミツバチ  
プロジェクト



ヤンマーでは、2011年から始まった大阪・梅田での養蜂活動「NPO法人梅田ミツバチプロジェクト」を支援しています(⇒P46参照)。プロジェクトは2013年からNPO法人として活動しており、本社ビルの屋上庭園内に、ハチの巣箱を設置する場所を提供するとともに、今後もさまざまな活動協力を行っていきます。

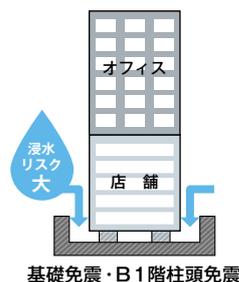


## BCP発動時の防災拠点

本社ビルは、BCPを発動した際の防災拠点としての役割を果たす必要があります。大阪市のハザードマップでは、大雨による淀川氾濫の際は地上4m近くまで浸水する可能性が指摘されています。本社ビルでは浸水の危険性を考慮し、重要な設備は2階以上に設置しています。

また、大規模な地震に備えビルの5階に免震層を設けた中間免震層を採用しています。これにより、震度7の地震に対しても建物の柱・梁など主要な構造部は損傷せず被害を最小限に抑えます。

### ▶免震層の位置と浸水リスク



### 本社ビル



## アジアでの「Solutioneering」を支える ヤンマーグループの生産体制

近年、急激な経済発展の影響により、  
中国やインドネシア、タイ、ベトナム、カンボジアなど  
アジア地域における農業市場の変化や需要の拡大が進んでいます。  
世界各国でグローバルに事業活動を展開する  
ヤンマーグループは、こうした動向に迅速に対応するため、  
現地での調達や生産体制を整備し、  
お客様へのSolutioneeringを展開しています。

1



### P.T. YANMAR DIESEL INDONESIA

従業員数: 548人  
生産能力: 7万台/年

#### インドネシア国内でエンジン生産・販売

- 2015年には累計生産  
100万台に到達する見込み
- 2011年、ヤンマー  
P.T. YAMINDOの  
農業機械販売・サービス事業  
を統合



2



### P.T. YKT GEAR INDONESIA

従業員数: 178人  
生産能力: 歯車200万個/年 HST5万台/年

#### 歯車に加え、HSTの生産も開始

- 歯車の専用工場だったが、  
2014年1月からYID敷地内で  
HSTの生産を開始
- HSTは2014年12月に  
新工場を建設し、  
2015年3月から生産開始予定



3



### PT. YANMAR INDONESIA

従業員数: 186人  
生産能力: 3万2千トン/年

#### ヤンマーグループ 初の海外鑄造部品生産拠点

- 2014年9月から量産を開始
- 人員は2013年度100名体制から  
2014年度には200名体制に



4



### P.T. YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA

従業員数: 533人  
生産能力:  
耕うん機1万6千台/年

#### インドネシア向け耕うん機・ 車軸管理機 生産工場

- 2015年に新工場増設を計画
- 車軸管理機QT30を日本へ輸出



※従業員数(非正規を含む)は、2014年9月末現在の数値です。

6



洋馬発動機(山東)有限公司

従業員数:270人  
生産能力:横水エンジン5万台/年  
立水エンジン3万台/年

立形水冷ディーゼルエンジンの生産ラインが稼働

- 2013年10月から量産を開始
- 2014年度中に生産能力を6万台に増強
- 将来的には中国需要の拡大に対して9万台までの生産対応を計画



7



洋馬農機(中国)有限公司

従業員数:821人  
生産能力:  
コンバイン6千台/年  
乗用田植機9千台/年

中国・東南アジア向けトラクター・コンバイン・田植機生産工場

- 2014年11月には工場増築工事が完了
- 2015年にはコンバイン生産能力増強を計画



6 中国国内のOEM向けに小型建設機械およびヤンマーグループ向けに農業機械エンジンとして立形水冷ディーゼルエンジンを供給

2 中国国内向けにHSTを供給

7 中国国内およびベトナム・インドネシア向けに普通型コンバインを供給

5 タイ国内のほか、カンボジアやインドネシアにトラクターを供給

JAPAN

日本



3 小形エンジン事業本部向けに立形水冷ディーゼルエンジンのシリンダーブロック・ヘッドを供給

2 小形エンジン事業本部、ヤンマー農機製造等に歯車を供給

THAILAND

タイ

CAMBODIA  
カンボジア

3 タイ向けにトラクター用鋳造部品、耕うん機用トランスミッションを供給

5



YANMAR S.P.CO.,LTD.

従業員数:695人  
生産能力:  
トラクター1万5千台/年  
横水エンジン5万台/年

東南アジア向けトラクター・耕うん機生産工場

- 2011年2月からトラクターの現地生産を開始
- 2012年7月からトラクターの主要部品であるトランスミッションの現地生産も開始



1 東南アジア・オセアニア・中近東地域向けに発電機、農業機械エンジンを販売

■ インドネシア国内のディーラー向けに農業機械エンジンとして横形水冷エンジンの生産販売を展開

INDONESIA  
インドネシア

# グループのさらなる成長に向け 「世界最適地生産」を加速させていく

アジアの農業市場における生産事業の機械化と大規模化の流れを受け、ヤンマーグループでは、現地のニーズや使い方にマッチした製品を現地で作る「世界最適地生産」に取り組んでいます。現在、生産工場のある中国、インドネシア、タイの3拠点に加えて、新たな生産拠点の設立や生産体制の再編を進めており、ヤンマーグループのさらなる成長に向け「世界最適地生産」を加速させていきます。

## PT. YANMAR INDONESIA

### 海外生産拠点で初めてとなる鋳造部品工場を新設

ヤンマーインドネシアでは、小形ディーゼルエンジンの主要部材であるシリンダーブロックやシリンダーヘッドをはじめ、トラクター用トランスミッションケース、クラッチハウジングなどヤンマーグループで製造する各種産業用機械の主要鋳造部品の生産・供給を担っています。

2013年9月には、ヤンマーグループの海外生産拠点で初めてとなる鋳造部品工場を新設し、2014年9月から現地での量産を開始しました。当面は小形エンジン事業本部向けに立形水冷ディーゼルエンジンのシリンダーブロック・ヘッドなどを供給するとともに、YANMAR S.P.CO.,LTD.向けにトラクター用鋳造部品を供給していきます。

鋳造部品工場では集塵機を屋内に設置することで外部への騒音や粉塵の飛散を防止するとともに、センサー付き活性炭脱臭装置の設置により中子焼成ガスの臭気を除

去するなど、周辺地域への環境に配慮しています。また、工場生産部門や総務部門が委員となり、月1回の省エネ委員会を開催しており、エネルギー使用量や廃棄物排出量のPDCAを回しています。



工場屋内に設置した集塵機

## YANMAR S.P.CO.,LTD.

### 東南アジア向けトラクター・耕うん機の生産工場

YANMAR S.P.CO.,LTD.では、トラクターと耕うん機を製造しています。トラクターのトランスミッションケースや、クラッチハウジングなどの鋳造部品はP.T. YANMAR DIESEL INDONESIAから供給を受け、トランスミッションやフロントアクスル部品を現地で生産しています。

トラクターは、タイ国内以外にカンボジアやインドネシアにも供給しており、2015年度からはオーストラリア、マレーシアにも供給する予定で、東南アジアのトラクター生産拠点として位置付けています。また、耕うん機のト

ランスミッションの仕組みはP.T.YAMINDOから供給を受け生産しています。



タイのディーラー



トラクターの生産ライン

## 中国国内の需要に対応し立形水冷エンジンの生産を開始

洋馬発動機(山東)は、これまで中国国内の農家や漁師向けに横形水冷ディーゼルエンジンを製造していました。しかし、近年、中国国内の都市部およびその近郊の開発が進んだことで、住宅建設や上下水道工事などに使用される小型建設機械などの需要が拡大し、より出力の大きい立形水冷ディーゼルエンジンの需要が高まっています。

また、環境保護を重要課題に掲げる中国政府は、かねてより排気ガスによる大気汚染を問題視しており、作業用機械や車両の各完成品メーカーは排ガス規制に対応できるエンジンの確保を急いでいます。

このような背景から、洋馬発動機(山東)は、OEM向けに立形水冷ディーゼルエンジンの生産ラインを新たに建設し、2013年10月から製造を開始しました。生産能力

は年間3万台で、将来的には需要の拡大に対して9万台まで対応できる体制を整備しています。

新工場で製造する製品への塗装には、びわ工場と同様、トルエンやキシレンなど有害物質の含有量が少ない塗料を使用するとともに、塗装からの排出ガスに含まれる揮発性有機化合物(VOC)の除去設備を導入するなど、環境への配慮にも取り組んでいます。



立形水冷  
ディーゼルエンジン



揮発性有機化合物(VOC)除去設備



新設した立形水冷ディーゼルエンジンの生産ライン

## 中国国内・東南アジア向け コンバイン・田植機の生産工場

洋馬農機(中国)では自脱型・普通型コンバイン、田植機、トラクターの製造を行っており、ヤンマーグループのなかで唯一トラクター、コンバイン、田植機すべてを製造している海外工場です。洋馬農機(中国)の主要機種である普通型コンバインは約90%の部品を現地調達しており、T/M・脱穀部・刈取部の組み立ても内製化し、本機最終組み立てを実施しています。

現在、普通型コンバインは中国国内以外にベトナムやインドネシアに供給しており、今後はフィリピン、ミャンマーへも供給していく計画です。2014年11月には工場増築工事が完了し、2015年にはコンバイン増産に向けた生産ラインの設置も行う予定です。



コンバインの生産ライン(走行ライン)



コンバインの生産ライン(脱穀ライン)

# Feature 3



## 「Solutioneering」で 世界最高水準の 小形ディーゼルエンジンを開発

ヤンマーがこれまで培ってきた「Solutioneering」をいかに発揮し、産業用ディーゼルエンジン業界に大きなインパクトを与えた排出ガス規制「Tier4」対応の世界一クリーンな小形ディーゼルエンジン——。米国カリフォルニア州大気資源局 (CARB) の排出ガス認証 (19~56kWクラス)、スイスの排出ガス認証 (18~37kWクラス) をいずれも世界で初めて取得し、世界中の産業機械メーカーから高く評価されています。



### 世界最高水準の 排出ガス規制「Tier4」への挑戦

ヤンマーが産業用小形ディーゼルエンジンの開発で排出ガス規制対応に本格的に着手したのは1990年代前半です。段階的に強化される規制に合わせて新型エンジンを開発し、市場に投入してきました。しかし、2013年に始まった「Tier4」は、前段階の「Interim Tier4」に比べ、PM(すす)で90%以上、NOx(窒素酸化物)で約40%の削減が義務付けられるという厳しいものでした。ヤンマーはこの規制に対応するため、開発、生産、品質管理、販売の各部門を越えた連携により、3年間の開発期間を経て「Tier4」対応エンジンを開発しました。

「Tier4」対応エンジンは、電子制御により燃料噴射をコントロールする「コモンレールシステム」、PMなどの捕集や自動排除を可能にした「ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF)」、NOxを低減できる「クールドEGR (排出ガスの再循環)」の3つの技術を採用することにより、世界で最も厳しい排出ガス規制の一つであるスイスの大気汚染防止法の認証を取得することに成功しました。

#### 日米欧で段階的に 進められている排出ガス規制

産業用ディーゼルエンジンの排出ガス規制は、2000年から日米欧が歩調を合わせて段階的に進めてきました。米国では「Tier」、欧州では「Stage」と呼ばれ、排気ガスの中に含まれるPMやNOxを削減することを規制するものです。第4次排出ガス規制の「Tier4」は「Interim Tier4」を経て2013年から開始されました。

なお、米国や欧州の規制が排出ガスの中に含まれるPMなどの質量を規制するのに対し、スイスの排出ガス規制は粒子数を規制する新たな考え方で、将来的には世界各国が追随するものとみられています。

■排出ガス規制「Tier」の規制値 (19kW以上37kW未満)



## “技術のヤンマー”としての誇りを胸に 部門を越えた総合力で未知の技術に挑む



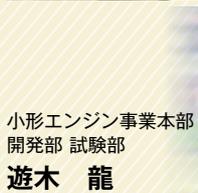
中央研究所 研究センター  
エンジングループ  
**川辺 研**



中央研究所  
エレクトロニクス開発センター  
組込ソフトウェアグループ  
**堀 大貴**



小形エンジン事業本部  
開発部 エンジン技術部  
**小野寺 恭志**



小形エンジン事業本部  
開発部 試験部  
**遊木 龍**

### 社内外の知見と技術を集め、 さまざまな困難を乗り越えていった

新型エンジンは、「Tier4」の規制値に対応するため、これまでヤンマーが製造してきた産業用ディーゼルエンジンとは異なり複雑な電子制御技術やDPF、EGRなどの環境技術を新たに搭載しています。そのため、中央研究所の川辺は「これまで社内で蓄積されてきた技術に加え、社外から新たな知見や考え方を取り入れるため、世界中のメーカーを訪問し最適な情報を仕入れたうえで、ヤンマー独自の技術を構築し、開発の方向性を定めていきました」と話します。

コモンレールを担当した堀が「どのような技術が必要かは見えていたのですが、どうやってそれらを整理すればいいのかが分からなかった。まさにトライ&エラーの繰り返しでした」と振り返れば、ハード部分の構造設計を手がけた小野寺も「作業機側への搭載を考えたとき、エンジンの外形サイズは原則変えられない。新たな電子部品を追加するため、どうやってコンパクトに作るか試行錯誤の連続だった」と語ります。

試験担当の遊木は「DPFなど未知の技術開発に取り組むにあたって、社内外の知識やアイデアを地道に積み上げていったことがプレイクスルーにつながった」とさまざまな困難に打ち当たりながらも、部門を越えた総合力でそれぞれの課題を乗り越えていきました。

### 社員一人ひとりが 同じ目的に向かって開発に邁進

プロジェクトは、エンジンの開発と並行して営業や品質管理、生産技術の各部門も同時に動いていました。営業部門では「試作当初からお客様の作業機に搭載いただき、エンジンの信頼性の確認をベンチ試験と同時並行で実施しました」と担当の森は話します。

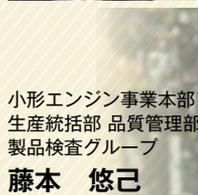
量産試作や量産後の品質管理を受け持った藤本は「複雑なエンジンですから、評価項目も当然のように増えていきました。量産化にあたっては、試作機の段階から各種部品の選定や作り方を変えていきますので、その時点でも品質が低下しないようにチェックしていきます」。

量産化の段階では、生産技術部門が生産ライン設備やレイアウトの変更を大幅に実施しました。生産を担当した三好は「びわ工場で作っているエンジンは1,800機種あり、ラインで流れているエンジンは1台1台違う状況です。ここに部品点数の多い新型エンジンが追加されますから、品質を確保するためのライン構築は困難を極めました」と語ります。

「Tier4」対応エンジンの完成は、それぞれの課題に各部門の現場で働く社員一人ひとりが“技術のヤンマー”としての誇りにかけて、新型エンジンを世の中に送り出すという同じ目的に向かって挑んだことで実現しました。ヤンマーはこれからも世界最先端のエンジニアリング力を生かしたソリューションを展開していきます。



小形エンジン事業本部  
エンジン営業部 国内販売部  
西部販売グループ  
**森 正典**



小形エンジン事業本部  
生産統括部 品質管理部  
製品検査グループ  
**藤本 悠己**



小形エンジン事業本部  
生産統括部 生産技術部  
エンジングループ  
**三好 信之**

# 世界中でミッションステートメントを理解し、自ら率先して行動するために

ヤンマーグループは、2012年に策定したミッションステートメントと行動指針を全社員が正しく理解するため、さまざまな「ミッション浸透活動」を開始しました。

現在は、社員一人ひとりが、自身の仕事とミッションとのつながりを理解し、自ら率先して行動できるようになるため、

「ミッション研修会」や「YWKグローバル大会」を開催しています。

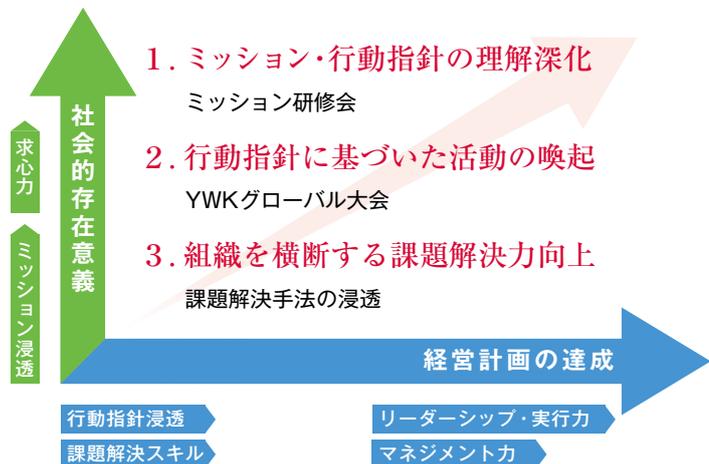


## ミッション浸透活動が 目指すもの

2012年度から取り組みを開始した「ミッション浸透活動」は、プレミアムブランドプロジェクトと連携を図りながら、ミッション経営の実現に向けて取り組んでいる活動です。

「ミッション・行動指針の理解深化」「行動指針に基づいた活動の喚起」「組織を横断する課題解決力向上」の3つの目的を達成することで、ヤンマーの社会的存在意義の理解の向上と、経営計画の達成を図ります。

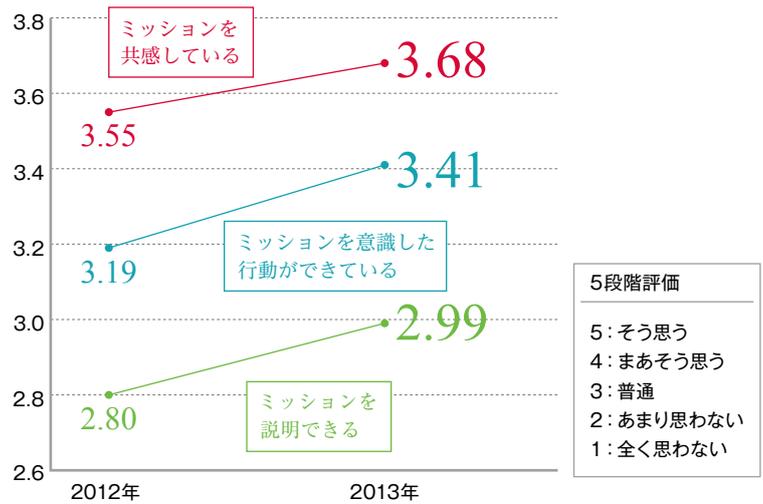
### ▶2013年度 ミッション浸透活動の体系図



# 「ミッション研修会」をグローバルに開催

海外のグループ会社を含め、ヤンマーグループ全体で開催している「ミッション研修会」は、2014年6月までに、2度開催されました。2013年度は国内52会場、海外22会場、32回開催され、ミッションステートメントと行動指針を共有するとともに、リーダーとしての仕事のレベルアップや、お客様の生涯価値を高めるために何ができるかを考え、ディスカッションしました。共通のテーマを取り扱うことでグローバルにグループ共通の価値観を醸成し、ヤンマーグループ総合力向上の一助となっています。

## ▶ミッション浸透度 社内調査



## ▶2013年度「ミッション研修会」の開催状況

### 中国 3会場



洋馬発動機(山東)有限公司

### 米州 4会場



MASTRY ENGINE CENTER LLC.  
A YANMAR COMPANY

### 日本 52会場



ヤンマー情報システムサービス株式会社

### 欧州 5会場



YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE S.A.S.

### アジア 10会場



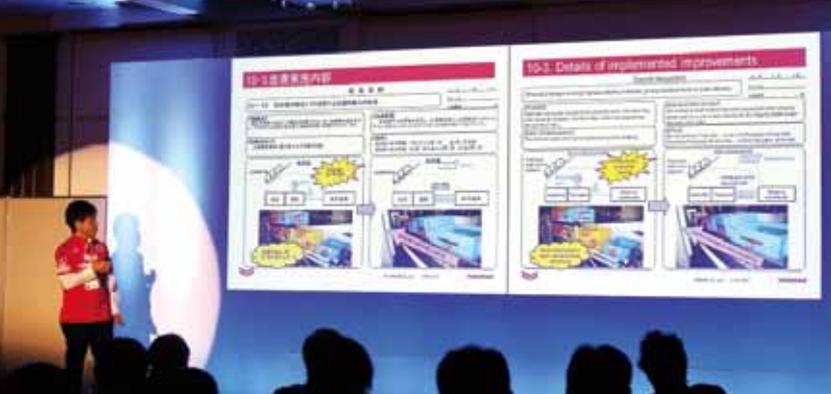
P.T. YKT GEAR INDONESIA

## 「YWKグローバル大会」でチャレンジする風土を醸成

2014年3月、ヤンマーグループは「YWKグローバル大会」を開催しました。

YWKとは「Yanmar Way by Kaizen」の略称で、知恵ある改善を繰り返し、ミッションやビジョンの実現に向け企業体質を強化する活動です。「YWKグローバル大会」はこれらの活動成果を発表・賞賛する大会として、今回初めて開催されました。これまで生産系の部門で行われていたQC活動に加え、全グループから改善やチャレンジを募集し、全648チームのなかから選ばれた21チームが大阪で成果を発表しました。

QC部門、改善部門、チャレンジ部門の優秀チームに加え、特別賞、Facebook「いいね」賞が選出され、山岡社長から表彰されました。これからもグローバルに相互啓発を促す機会として大会を開催し、社員一人ひとりが自発的に改善、挑戦する風土の醸成を目指します。



### QC部門

ヤンマー(株)特機エンジン事業本部

#### ロッド大形仕組み工程における作業時間の低減

2013年9月以降、大形機種の生産量が増加し、仕組み工程能力が不足することが予想されたため、EY22・EY26仕組み作業時間の20%低減の目標に向かい、大形仕組み工程における作業時間の短縮を実現しました。



ロッドの面取り方法および工具の変更により作業時間を短縮

### チャレンジ部門

ヤンマー農機韓国(株)

#### “さすがヤンマー”と言われるサービス活動展開

韓国農機市場で事業量を拡大していくため、他社との差異化を図り、“さすがヤンマー”と言われるサービス活動の展開に取り組み、お客様から高いサービス満足指数を得ました。



お客様の作業時間損失を減らすため、自己整備ができるよう「セルフケア研修」を開催

## 改善部門

ヤンマーアグリジャパン(株)関東甲信越カンパニー

### 「整備リードタイムの極小化」 による整備効率改善

より多くのお客様の要望にこたえ、サービスで営業するという目標を達成するために、整備リードタイムの改善に着目しました。「見積の回答待ち」や「人間待ち」等の待ち時間の削減に取り組むことにより、整備リードタイム30%の短縮を達成しました。



整備を効率よく行うため、管理ボードを活用し洗車予定を「見える化」

## 特別賞

ヤンマー農機製造(株)

### トラクター製造移管に伴う 品質安定活動

伊吹工場から岡山工場へトラクターの生産を移管する際に、各部門からキーパーソンを集め、想定される品質問題を事前に検証し、市場への不具合流出ゼロを実現しました。

## Facebook「いいね」賞

ヤンマー(株)小形エンジン事業本部

### ジャーナル研削の不良削減

カム軸ラインにこれまで顕在化していなかった不良が多発したため、治具の見直しやチャックの改良、加工プログラムの修正などを行い、不良の発生を削減しました。

## 社員が取り組んだ ミッションステートメント実践の 事例集

ヤンマーグループの社員が、日々の業務を通じてどのようにミッションステートメントを意識し、お客様の課題解決に取り組んでいるのか、具体的な社員の声を全グループに広く紹介しています。

### ミッションステートメント 実践事例集『THE GOOD WORK BOOK』

社員自らが行動指針に沿ってお客様の課題解決に取り組んだことで、ミッションの実現につながった事例を集めた小冊子です。事例を参考にすることで自らの行動を進化させるきっかけ作りに役立っています。



— ミッションステートメント実践事例集の一例 —

### 緊急時の対応がビジネスチャンスに つながることを学びました

数年前、大型台風が広島を直撃し、私がポンプ場や非常用発電機納入現場への緊急呼び出しに対応していた時のことです。

電話会社の担当者様より、電話交換所の発電機が運転不能となったためすぐ見て欲しいとの緊急依頼がありました。私は別の現場の対応中だったため、終わり次第お伺いすることを約束しました。その後、お客様より「電源車を手配したのもう現場に来なくていい」と連絡があったのですが、結局、電源車も運転できない状況とのことで再度調査依頼がありました。

私が現地へ急行すると、他社製のエンジンが冷却水の供給不足により運転できなくなっていました。水圧・水温に余裕があったため冷却水の出口バルブを絞って水量調節を行うことで連続運転可能となり、処置完了後、お客様に注意点を伝えて現場を離れました。そして翌年、機器更新の際にヤンマー製の発電機を注文していただけることとなったのです。

この経験を通して、お客様が本当にお困りの際に的確に対応することがお客様にとっての価値を生み、思いもよらないところで新たなビジネスにつながることを学びました。

ヤンマーエネルギーシステム(株)  
広島支店

川幅 泰二



### 農業や漁業をはじめとする 産業そのものの価値まで高める 新たなブランド・アイデンティティを 確立していきます



創業100周年を機に発足した「プレミアムブランドプロジェクト」。次の100年に向けた成長戦略を加速させるため、全社でブランドイメージを統一化し、多彩な取り組みを通して世界中にヤンマーの持つ本質的価値を発信しています。ミッションステートメントの実現に向けた活動を正確かつ効率的に伝えることでブランド価値を高めていきます。



### 生産者と消費者を直接つなぐ青空市場 「プレミアムマルシェ」

近年、食の品質や安全性へのこだわり、自然と調和したより豊かなライフスタイルを求める志向など、人々の価値観は大きく変化してきています。食料生産の分野に長年携わってきた企業として、若者や都会の人々に農業・漁業へ

の興味を持ってもらう取り組みを行うことで、ひいては産業そのものの価値までも高めていくことを目指しています。

その活動の一環として、食をテーマにしたテレビ番組を制作・放映するとともに、生産者がこだわりを持って大切に育てたプレミアムな食材を提供する青空市場「プレミアムマルシェ」を仙台、東京、大阪、福岡の4都市で開催しました。

こだわりの生産物を生産する生産者と、よりおいしい食材を求めている消費者を直接つなぐこの取り組みは、いずれも好評のうちに終了しました。今後も、生産物のこだわり(付加価値)の部分を文脈化して世の中に発信し続け、「農」の活性化に貢献していきます。

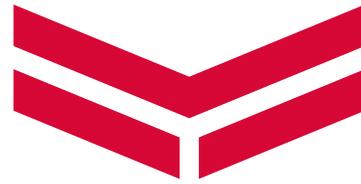
また、新しい“農”をクリエイイトするヤンマーとして、これからの強い農業のため、そしてこれからの漁業のために、産業の下支えとなり、食料生産の分野において人々のより豊かな暮らしを実現していきます。



生産者のこだわり食材を消費者に直接販売

## これまでのヤンマー像を 刷新しブランド価値を高めていきます

新たに考案したブランド・アイデンティティ「FLYING Y」は、YANMARの「Y」をシンボライズするとともに、ヤンマーの由来であり、日本人にとって豊作の象徴でもあるトンボ(オニヤンマ)の「羽」をモチーフにデザイン。これにより、次の100年へと飛躍するブランドの意志を表現しています。また、鋭角的なフォルムは、未来を切り拓く先進性と精緻を極める世界最先端の技術力を表す一方、コーポレートカラーでもある赤は、「開拓者精神」「挑戦」「情熱」「太陽」「豊かさ」を表しています。



FLYING Y

## 最先端の素材技術と デザインを融合した 農業専用ウエア

最先端の素材技術とデザインを融合した農業専用ウエア「ヤンマー・プレミアム・アグリカルチュラル・ウエア」の限定販売を開始しました。農業の現場での負担を減らす機能性と、毎日の仕事楽しくなるファッション性を兼ね備えた高性能ウエアです。

農家で働く人々からのヒアリング結果に基づき、作業に費やすエネルギーを軽減する軽量素材の採用や、農作業特有の動作によるストレスを抑える生地のカッティングなど、これまでの作業着にはない細かな改良が施されています。

大地と日々向き合う姿からイメージしたチタニウムブラウンをベースに、レディースには鮮やかなピンクを、メンズには黒をアクセントカラーに採用しています。

■スペシャルWebサイト：<https://shop.yanmar.com/>



機能性とファッション性を兼ね備えた農業専用ウエア

## 子どもたちに“農”の楽しさを 知ってもらおうパビリオン 「ファーマーズセンター」

2014年3月、キッザニア甲子園とスポンサー契約を結び、「ファーマーズセンター」をオープンしました。施設内のパビリオンでは、子どもたちはスタイリッシュなアグリウエアに着替え、農業機械の最新テクノロジーを再現した3種類のリアルなシミュレーターやトラクターの操作を通じ、お米作りを体験することができます。

ヤンマーは、パビリオンの出展を通して、未来を担う子どもたちに日々進化する“新しい農の姿”を伝え、子どもたちの持つ農業に対するイメージを変えていきたいと考えています。パビリオンでの体験が、農業をイノベーションにあふれたワクワクする職業として、子どもたちから選ばれる産業へと進化させ、将来の食料生産を担うファーマー誕生につながることを期待しています。



農業機械をリアルに体験できるシミュレーター



■ヤンマーミュージアムの概要

所在地: 滋賀県長浜市三和町6-50 (JR長浜駅から徒歩で約10分)

電話: 0749-62-8887

開館時間: 10:00~18:00 (入館受付は17:00まで)

休館日: 毎週月曜日 (祝日や振替休日の場合は翌日)、年末年始

# Highlight 3 ヤンマーミュージアム



## “ここにしかない感動”を地域の皆様に体験いただけるように

ヤンマーの創業者・山岡孫吉が生まれ育った滋賀県長浜市に開館した「ヤンマーミュージアム」は、2013年3月のオープン以来、17万人 (2014年11月現在) を超えるお客様にお越しいただきました。「大地」「海」「都市」の3つの事業領域で、自然と共生し、食料生産とエネルギー変換におけるイノベーションを体現した豊富な展示内容やワークショップを通じて、“ここにしかない感動”を来館者の皆様にお届けしています。



## 「研究開発ゾーン」を新たにオープン

開館1周年を迎えた2014年3月、ヤンマーグループの未来への研究・開発の取り組みを示す展示として「研究開発ゾーン」を新たにオープンしました。

「研究開発ゾーン」は、ヤンマーホールディングス取締役の奥山清行が手がけてきたコンセプト製品の開発ストーリーを、奥山のインタビュー映像やアイデアスケッチなどの資料とともに紹介し、“ものづくりの楽しさと感動”を実感していただける内容です。

また、国内初となる最新鋭の建設機械シミュレーターシステムを導入し、実物同様のリアルな機械操作を体験していただけます。シミュレーターは、ヤンマー建機のViO (ピオ) 80の動きを忠実に再現しており、オペレーターのトレーニングや、新製品のテストにも活用することができます。



研究開発ゾーン

## 「長浜景観広告大賞」「BCS賞」を受賞

ヤンマーミュージアムは、長浜市内の優れた屋外広告物を表彰する「長浜景観広告賞」と、国内の優秀な建築作品に与えられる「BCS賞」を相次いで受賞しました。

長浜市が主催する「長浜景観広告賞」は、長浜市内において屋外に設置されている広告物、老舗店舗などの歴史や伝統を伝える広告物、企業や店舗などの特徴を優れたデザインで表現した広告物を表彰する賞です。「ヤンマーミュージアム」は、ミュージアムの外観やロゴなど地域に溶け込む優れたデザイン性が高く評価され、2013年度の大賞を受賞しました。

一方、一般社団法人日本建設業連合会が主催する「BCS賞」は、1960年に創設された日本の建築業界において最も権威ある賞の一つです。受賞にあたっては、外観デザインや機能が優れていることはもちろん、周辺環境や街並みへの配慮、地域との融合、新しい試みへのチャレンジなどの点が、BCS賞の趣旨に沿った素晴らしい建築作品であるとの評価をいただきました。

当館を含むすべての受賞作品は、世界各国の在日大使館などにも配布される「第55回BCS賞作品集」に掲載され、国内外へ広く紹介されます。



大地を表現した屋上ビオトープ



南面ショップ・カフェタ景

### ワークショップの開催

ヤンマーミュージアムでは、環境、ものづくり、農業などの大切さを“見て・感じて・学べる”多彩なワークショップを毎月開催しています

#### 環境教育



屋上ビオトープ観察会

#### ものづくり体験



木製エンジン組立体験

#### 食育



米粉パンケーキを作ろう！

#### 農業体験



体験農園で田植え体験

※ワークショップの内容は毎回替わります。詳細は当館まで直接お問い合わせください。

### 大津市立の小学校2校から約300名を受け入れ、ふれあい体験学習を行いました

2013年8月、大津市立の晴嵐小学校、瀬田小学校の小学5年生約300名を受け入れ、合同のふれあい体験学習を行いました。オープン以来初の大規模な体験学習会でしたが、担当の先生方との事前打ち合わせや配布物作成のお手伝い、子どもたちとの交流を通じて、教育の現場に求められるミュージアムのあり方、関わり方、存在価値を一緒に学びながら、貴重な経験を積むことができました。



クイズのヒントをヤンマースタッフに尋ねる子どもたち



ボート操縦体験

# 経営の透明性向上を図り 管理体制の強化を図っています

## コーポレートガバナンス

### 基本的な考え方

ヤンマーグループは、企業価値を継続的に向上させていくために、迅速な意思決定、明確な責任の所在など、健全で透明性の高い経営体制と内部統制システムを整備したコーポレートガバナンス体制を整えています。

### 独立性の高い社外取締役を選任し 経営の公正性・客観性・透明性を高めています

グループ経営と事業執行を分離するため、2013年から持株会社体制に移行しました。持株会社であるヤンマーホールディングス（株）の取締役会は、2014年6月30日

現在5名で構成され、うち1名は独立性の高い社外取締役とし、経営の公正性・客観性・透明性を高めています。

ヤンマーホールディングス（株）の取締役会のもとには「グループ戦略会議」を設置し、グループ全体の方向性の審議・決定や経営課題の解決を行うことで、効率的かつ効果的なグループ経営を行っています。また、「グループ戦略会議」の諮問機関として「グループリスクマネジメント委員会」を設置し、グループ経営上の重要なリスクを管理しています。

ヤンマーホールディングス（株）の監査役は、取締役の職務遂行を監査するとともに、監査部およびヤンマー（株）の監査役会・監査部と連携してグループ経営全般に関わる業務執行状況について監査しています。加えて、外部監査法人が会計監査を実施し、会計や会計に関わる内部統制の適正・適法性について第三者の立場から検証しています。

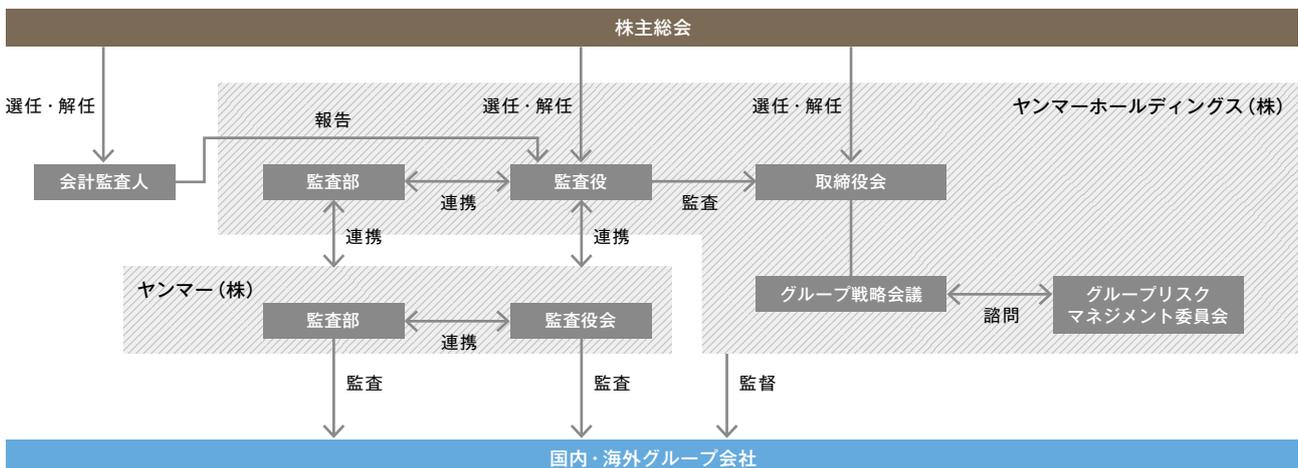
社外取締役の  
人数

1名

### 内部統制システム構築の基本方針（主な内容）

- 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- 損失の危険の管理に関する規定その他の体制
- 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- グループ全体として業務の適正を確保するための体制
- 監査役が実効的に監査が行われることを確保するための体制および監査役の職務補助者の独立性の確保

▶ コーポレートガバナンス体制図（2014年6月30日現在）



## 緊急連絡手段として安否確認システムを活用しています

近年、気象状況の激変により局地的な大雨による被害が各地で発生していますが、路面の低い尼崎工場も集中豪雨による床面の浸水被害が発生する恐れがあります。そこで、特機エンジン事業本部では、2014年8月に安否確認システムを使った仕組みを構築し、近隣に住む従業員に初動対応のための出社要請を行えるようにしました。今後も、その他のリスク発生時に活用できないか検討していきます。



ヤンマー(株)  
特機エンジン事業本部  
総務部 総務グループ  
橋本 典和

## リスクマネジメント

### 基本的な考え方

ヤンマーグループでは、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、的確な管理・実践が行えるようにすることを目的に、グループリスクマネジメント委員会を設置し、リスクマネジメントの取り組み全体の方針・方向性の検討、リスクマネジメント推進に関わる課題や対応策の協議を行っています。

### グループリスクマネジメント委員会で事業活動に関するリスクに取り組んでいます

ヤンマーホールディングス(株)の設立に伴い、グループリスクマネジメント委員会は、「事業活動に関するリスク」を取り扱うとともに、委員会の下には、機能別のリスクを統括する8つの専門部会を設置し、グループ傘下の各対象組織(会社)に対して、機能別リスクの未然防止、再発防止策を展開しています。

リスクを統括する  
専門部会

8つ

▶ リスクマネジメント推進体制図(2014年6月30日現在)



### 「リスク事案報告のデータベース」の活用

ヤンマーグループ内で発生したリスク事案について、リスクマネジメント担当者が対策の進捗をその都度記入し、その内容を経営トップ層と共有するものです。2013年度の報告件数は7件でした。

### 緊急対応体制の整備

緊急時の初動体制として、緊急対応フローを整備しました。緊急対応が必要な災害・事故・事件が発生した場合には、緊急対応フローに基づいて危機レベルに応じた緊急対応体制を設置します。また、休日や夜間の緊急事態発生に備えて緊急連絡網を整備し、緊急連絡網が機能しない場合のバックアップ体制として、24時間受付可能な「ヤンマー緊急受付センター」を設置しています。

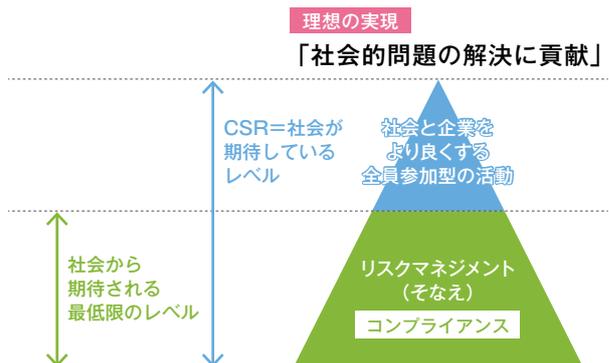
### 安否確認・連絡システムの活用

地震や風水害等の災害発生時に、社員・家族の安否や被害状況を確認するとともに、社員への一斉連絡ができるシステムです。2013年度は、震度5弱以上の地震発生に対して8回発報し、安否確認を行いました。また、有事に備えて、毎年1月・9月にグループ全社員を対象とした一斉訓練を実施しています。事業所ごとに発信できる体制を備えており、各事業所においても、緊急連絡が必要な場合に活用しています。

### コンプライアンス等を経営の基盤にCSRに取り組んでいます

ヤンマーでは、コンプライアンス、リスクマネジメントを経営の基盤に、社会からの期待に応え、社会と企業をより良くする全員参加型の活動としてCSRに取り組んでいます。

#### ▶ CSRとその他の活動との関わり



# 個性と多様性を尊重し 安全で快適な職場環境づくりに努めています

## 人事に関する基本方針

ヤンマーでは、グローバル競争のなかで生き残っていくためには、商品だけでなく組織や個々の人材も強くなる必要があるという認識のもと、社会から、「さすがヤンマー社員」と言われる人材を創り上げたいと考えています。

- 企業ミッションと企業戦略の実現に必要な人材の確保・育成・配置を行うほか、その実現に向けた活動への動機付けを通じてグループ社員の能力と仕事への情熱を極大化する。
- ヤンマーグループの社員満足度の向上を目指し、ワークライフバランスに配慮した公平・公正な運営を行う。

## 多様性への取り組み

### グローバル化戦略の一環として ダイバーシティに取り組んでいます

ヤンマーでは「国籍・性別・年齢を問わず、世界で通用するプロフェッショナルな人材の確保」を目的に、多様な人材を採用しています。

現在、全社横断的に「ダイバーシティ推進プロジェクト」を立ち上げ、ヤンマーにおけるダイバーシティのビジョン(定義)、ゴール(あるべき姿)の設定、およびダイバーシティ推進に取り組むユニットの設定を行っています。

### 女性社員活躍の推進

ヤンマーでは2014年3月末現在、従業員数3,313名のうち、女性社員は423名(12.8%)となっています。

女性の多様な働き方を支援するため、結婚・出産・育児・配偶者の転勤等で退職する女性社員(総合職・業務職)を対象にした「女性社員復帰制度」を設け、退職後に再度、当社で勤務してもらう可能性を提示しています。

女性社員の割合  
**12.8%**

### 障がい者雇用の促進

障がい者の雇用機会を広げるとともに、入社後の定着率の向上に取り組んでいます。

## TOPICS

### 社会、地域、さまざまな人々との共生めざし ヤンマーシンビオシス(株)を設立

ヤンマーシンビオシス(株)は、ヤンマーグループの企業ミッションである「自然との共生」をさらに一歩進め、社会との共生、地域との共生、さまざまな人々との共生をめざし2014年4月に会社を設立しました。設立から準備を進め、2014年11月現在、11名の障がいを持つ方が入社し、同年10月8日に特例子会社<sup>\*</sup>の認可を受けました。

#### ●ヤンマーシンビオシスの事業内容

1. 農業ソリューション事業(栗東事業所):花苗・野菜苗の生産、販売等
2. オフィスサポート事業(大阪本社):郵便集配・印刷・事務サポート・清掃業務等
3. 生産サポート事業(長浜事業所):エンジン部品の梱包・仕分け作業等(2015年4月開始予定)

<sup>\*</sup>「特例子会社」とは、国から特別に認められた制度であり、障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立することにより、グループを一つの企業とみなして、雇用率を算定することができる制度

### 高齢者の活躍推進

2014年3月末現在、ヤンマーの従業員数3,313名のうち、定年後再雇用者は290名(8.8%)となっています。

## 人材育成

### 基本的な考え方

ヤンマーでは、グローバルに拡大するビジネス世界にふさわしい人材の育成に向けて、グループ全体の能力開発をサポートしています。製造現場ではものづくりの力を強化するために基礎技能や業務に関連する知識の習得などを奨励し、幅広い人間性を養う教育を実施しています。

## 日本一の特例子会社を目指し、自分の役割を全うしていきます

ヤンマーシンビオシスに入社し、本社ビルで印刷業務に携わっています。この仕事はさまざまな部署の人たちとふれあう機会が多く、とても楽しく仕事ができています。私の目標は、ヤンマーシンビオシスを規模・実績ともに日本一の特例子会社にすることです。そのためにも、自分の役割や立場をしっかりと踏まえ、一歩ずつではありますが確実に成長していきたいと考えています。



ヤンマーシンビオシス(株)  
オフィスサポートグループ  
印刷チーム  
有本 規人

## グローバル化に対応した 多様な人材育成に取り組んでいます

ヤンマーでは、柔軟かつ計画的な人材の配置と交流を行っています。通常の人事異動のほか本人が直接人事部門へ異動希望を申告する「異動に関する自己申告制度」、新規事業などへの社内公募制度である「ヤンマー・ドリカム (Yanmar Dreams Come True) 制度」、さらに業務に関して幅広くかつ高度な知識を有する人材を計画的に育成する能力開発プログラム「キャリア・デベロップメント・プログラム (CDP) 制度」を導入しています。

さらに、現地の文化を知り、現地の視点でコミュニケーションできるグローバル人材の育成に向け、2013年度は、海外現地法人との人材交流や、語学研修（指名制、マンツーマン）、海外赴任前の研修（語学、リスクマネジメント）等に年間延べ300名が参加しています。

また、将来の企業経営を担うべき人材育成のため、経営管理能力の向上を図るマネジメント研修を実施しており、2013年度は20名が3日間（25時間）の研修を6回受講しました。さらに海外でのコミュニケーションやリーダーシップなどの能力開発を支援しています。

## ワークライフバランスの推進

### 家庭と仕事の両立を目指し さまざまな制度を有効に活用しています

育児介護休業等の制度や積立有給休暇制度の充実など、家庭と仕事を両立させ、すべての従業員が能力を十分に発揮し、安心して働き続けられるような職場づくりに取り組んでいます。

2013年度はヤンマーにおいて、育児休暇の利用者数が36名、短時間勤務者数が34名、産前産後休暇取得者数が24名、介護休暇の利用者数が5名となっています。また、ワークライフバランスや業務効率を向上させるために、一部の研究開発・スタッフ部門で「フレックスタイム制」や「裁量労働制」を導入しています。

育児休暇の  
利用者数

36名

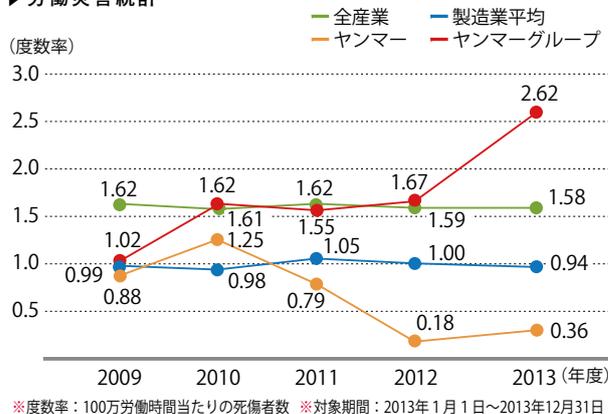
## 労働安全衛生

### 従業員一人ひとりの 安全確保と健康増進に取り組んでいます

ヤンマーグループでは生産工場ごとに労働環境が異なるため、それぞれに安全と衛生を確保する独自のマネジメントシステムを構築しています。各工場では安全衛生委員会を設け、パトロールの実施など安全衛生管理の強化に努めているほか、教育研修や現場での意識の向上と災害防止などに生かしています。

また、健康増進への取り組みでは、メンタルヘルスに関する上級指導職研修の開催や、産業医による健康講演会を年に1回本社で開催しています。そのほか、健康保険組合、人事労政部、事業本部総務部、労働組合メンバーで構成する健康管理推進委員会で、定期健診やメタボリックシンドローム対策などを協議しています。

▶ 労働災害統計



## 従業員との対話

### 労働組合・社員組合と 安定した労使関係を継続しています

ヤンマーでは、ヤンマー労働組合・ヤンマー社員組合と安定した労使関係にあり、従業員の職場環境・労働条件などについて定期的に交渉・協議を行っています。

また、経営状況説明会や労使懇談会など、会社の経営状況について話し合う場を設けています。

ヤンマーグループでは、地球環境の保全を経営方針における最重要課題と位置付け、環境経営の推進、環境への配慮を基本とした事業活動を進めています

## グループ環境ビジョン2020の策定

ヤンマーグループは、2011年に当時の温室効果ガス削減の国際的な目標年度である2020年度に向けて「グループ環境ビジョン2020」を策定し、グループの環境活動の方向性を決めました。

現在は、新たな国際的な目標年度の設定に対応すべく、グループ全体での取り組みを進めています。

### グループ環境ビジョン2020

ヤンマーグループは、環境に負荷を与えている製品を扱っていることを認識し、エネルギー技術の先駆者として、持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

#### 生物多様性への取り組み

- 自然との共生に配慮した事業活動の推進
- 生態系の保全に貢献する製品・サービスの提供

#### 地球温暖化の防止

- 製品のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量を削減
- 事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量を削減

### 持続可能な社会を実現

#### 資源循環型社会への貢献

- 事業活動における廃棄物を削減
- リサイクル資源の有効活用を推進
- 製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進

#### 環境負荷物質の削減・管理

- 環境負荷物質の使用量を削減
- サプライチェーン全体で環境負荷物質を管理

#### ①地球温暖化対策

- 省エネ、創エネ製品の創出やバイオマス燃料の利用拡大により温室効果ガス排出量削減に貢献します。また、既存商品については徹底的な効率向上を図ります。これにより製品のライフサイクルにおける温室効果ガス排出量の削減を目指します。
- 日本および世界各国の削減目標に基づき、事業活動における温室効果ガス排出量の削減を目指します。

#### ②資源循環型社会への貢献

- 事業活動における産業廃棄物の埋め立て処分量の削減を行います。
- 事業活動への投入資源に対するリサイクル資源投入率の向上に取り組めます。
- 環境調和設計を行い、製品の3R(リデュース、リユース、リサイクル)向上に取り組めます。

#### ③環境負荷物質の削減・管理

- 生産事業所における環境負荷物質の削減を行います。
- 製品に使用される環境負荷物質をサプライチェーンのなかで管理し、最新の化学物質規制に適合した製品・サービスを提供します。

#### ④生物多様性への取り組み

- 自然と共存できる事業活動に取り組めます。
- 新たな製品・サービスの提供によって生態系の保全に貢献します。

## 環境負荷の全体像

ヤンマーグループは、事業活動のなかで、原材料の調達から生産、輸送、流通、使用、廃棄にいたるまでの全過程における環境負荷を定量的に計測・把握し、その削減に取り組むことが重要であると考えています。

2013年度も引き続き、グループ会社の生産工場を対象に環境負荷の計測を実施し、必要なデータの蓄積を行いました。今後は、商品のライフサイクルの各段階における環境負荷の分析・検討作業を推進していきます。



## 第三次環境中期計画(2011年~2015年)の目標と達成状況

分類	項目	中期目標(2015年度)*	2013年度グループ目標		
環境保全	グループ地球環境委員会の範囲拡大	①国内オフィス・海外現法への活動拡大 ②グローバル地球環境委員会の開催 ③海外地域別環境委員会の設立	・環境データ集計対象範囲の拡大【国内オフィス、海外生産現法】 ・グループ環境方針の展開、各事業体と協調した保全活動の実施		
マネジメント	グループ間の相互活動支援	①環境担当者による環境教育の相互実施 ②事業体の相互協力による環境保全活動の実施 ③環境担当者による環境コンプライアンス監査の実施	・事業体間の相互協力による環境保全活動の推進 ・環境保全活動に関する情報交換体制の強化(先進他社訪問、勉強会の実施等) ・環境コンプライアンス監査の共同実施		
	国内オフィス・海外現法の環境保全強化	環境データの項目拡大と環境保全活動の拡大	・グループ環境方針展開済み各事業体への業務フォロー ・海外地域別環境保全担当者会議の定期開催		
温室効果ガス対応	①製品からの排出量削減	製品ライフサイクルにおける排出量の把握・削減	①排出量の把握手法確立 ②エネルギー使用量および排出量の削減【1990年度比15%削減】	・ライフサイクルアセスメント(LCA)の導入、展開継続 1) グループ代表機種によるLCA分析の試行 2) LCA分科会活動を通じた各事業体への展開 3) LCA手順書(ヤンマー標準PCR)の作成	
		排出量削減に向けた新手法の導入	①カーボンニュートラル製品の開発 ②カーボンフットプリントの導入検討	・再生可能エネルギーの導入可能性の調査、検討 ・作業機の電動化、ハイブリッド化の試行、検討 ・社会情勢、業界他社動向の調査 ・グループ製品への導入可能性検討	
		製品の環境関連認証取得	①エンジンの排ガス規制遵守 ②作業機の各種省エネ・環境負荷低減に関する認証取得 ③環境指向商品の開発、商品化	・排出ガス規制の遵守 ・省エネラベルの認証動向調査、グループ製品への展開検討 ・環境指向商品および環境配慮商品の全体売上比率の拡大	
	②事業活動からの排出量削減	国内工場からの排出量削減	エネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減【原単位で2005年度比13%(単年1.3%)削減、総量で2005年度比15%(単年1.5%)削減】	・原単位当たり2005年度比10.4%(総量12.0%)以上削減 ・電力見える化の実施範囲拡大、実証結果の分析および横展開 ・社内プロジェクトとの連携強化 ・社内委員会を活用した情報共有、省エネ計画の設定準備	
		物流工程からの排出量削減	①データ集計範囲の拡大 ②エネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減【原単位で2009年度比36%(単年6%)削減、総量で2009年度比6.6%(単年1.1%)削減】	・自社およびグループ製品、部品の物流データ集計範囲拡大 ・原単位当たり2009年度比24%(総量4.4%)以上削減(ヤンマーの所有物)	
		国内オフィス・海外現法からの排出量削減	①データ集計範囲の拡大 ②国内オフィスのエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の削減【原単位で2009年度比36%(単年6%)削減、総量で2009年度比24%(単年4%)削減】	・データ未集計の各事業体への指導 ・海外の温室効果ガス関連法令の動向調査 ・原単位当たり2009年度比24%(総量16.0%)以上削減	
	資源循環型社会への貢献	リサイクル資源投入率の向上	①新規投入量の把握範囲拡大 ②上水資源投入量の削減【原単位で2005年度比40%(単年4%)削減】 ③紙資源使用量の削減【原単位で2005年度比20%(単年2%)削減】 ④2014年度までに資源投入量および再生資源利用率を把握 ⑤新規資源投入率の削減目標設定	・自社の現状および他社動向の調査 ・資源投入量、廃棄物データの集計実施計画の立案および提示 ・上水資源投入量を、原単位当たり2005年度比32%以上削減 ・紙資源使用量を、原単位当たり2005年度比16%以上削減 — —	
			グリーン購入率の向上	事務用品等のグリーン購入率70%以上	・未集計拠点のデータ集計開始 ・グリーン購入対象品の把握
			廃棄物の埋め立て処分削減	①廃棄物総発生量の削減【原単位で2005年度比20%(単年2%)削減】 ②埋め立て処分量が廃棄物等総発生量の5%未満(ヤンマーは1%未満) ③廃棄物の再資源化率が70%以上	・原単位当たり2005年度比16%以上削減 ・廃棄物等の削減に関する情報共有ソース(DB等)の構築 ・国内販売会社の廃棄物排出量データ把握に向けた業務支援
		環境調和設計の導入	①製品の再利用、分別・回収の省力化を考慮した設計手法 ②ライフサイクルアセスメント(LCA)による環境負荷分析	・3R実施に向けた規格の制定、関係部門への周知	
工場における環境負荷物質削減		①PRTR法第一種指定化学物質取扱量の削減【原単位で2005年度比20%(単年2%)削減】 ②PCB処分完了(2016年まで)	・原単位当たり2005年度比16%以上削減 ・高濃度PCB使用製品の管理および処分時期の確定 ・低濃度PCB使用製品の管理徹底および処分方法の検討		
環境負荷物質対応	製品に含まれる環境負荷物質情報の管理	①情報管理システムの構築 ②サプライチェーンを含む情報管理体制の構築	・グループ共有の調査システムによるREACH規制対応調査実施 ・取引先、顧客等からの問い合わせへの対応		
	事業活動における環境負荷物質の削減推進	①環境負荷物質規制に対する遵法体制の構築 ②自主規制環境負荷物質の切り替え完了	・法令、条約の規制動向把握およびグループ各社への情報展開 ・自主規制(グリーン調達ガイドライン、YIS規格)の最新版管理の実施 ・自主規制4物質および各種法令による使用禁止物質の切り替え促進 ・グリーン調達ガイドラインに基づく化学物質調査の実施、調査結果の取りまとめ		
生物多様性対応	自然と共存できる事業活動	①大気・水質に関する自主基準の決定および維持・管理 ②事業所および周辺地域の植樹・清掃活動実施 ③化石燃料に代わる新エネルギー創出	・社会情勢を踏まえた自主排出基準の定期的な見直し ・事業所および建物の緑地、環境施設面積の拡大 ・清掃活動を通じた地域住民との交流促進 —		
		生態系保全に貢献する製品・サービスの提供	①生態系の保全につながる新規事業の展開 ②地域交流による生物が新たに生育する環境の提供	・生態系保存に貢献できる活動の計画、実施 ・事業活動および地域交流を生かした、新しい貢献活動の提案	
社会	周辺住民への貢献活動継続	①近隣との共同ボランティア活動 ②お客様・近隣との親睦事業実施	・事業所当たり最低1件以上実施 ・事業所の外部開放の機会提供(工場見学、厚生施設一般利用等) ・親睦イベントの積極的な主催および協賛		

\*2013年度目標設定時点

★★★ 目標達成   ★★ 一部未達 (70%以上)   ★ 未達 (70%以下)

	2013年度グループ実績	評価	2014年度グループ目標	関連ページ
	・国内オフィス、海外現法におけるデータ集計範囲(対象拠点・項目)の増加 ・各事業体、地域統括現法と協働した国際会議の開催	★★	・国内販売会社の環境データの集計範囲拡大 ・海外製造現法のデータ集計範囲の拡大 ・ISO14001の認証取得支援および運営体制のレベルアップ	Web
	(主だった活動実績無し)	★	・事業体間の相互協力による環境保全活動の推進 ・環境保全活動に関する情報交換体制の強化	Web
	(環境事務局による単独実施)	★	・海外現法の環境コンプライアンスの遵守強化(特にアジア地域現法) ・海外現法の所在地における最新法令情報の入手方法の検討	Web
	・インドネシア・中国現法への訪問・現地会議実施	★★	・環境目標の設定および設定準備【北米・欧州等のデータ集計開始 海外現法】 ・グループ環境方針展開済み各事業体への業務フォロー継続 ・海外地域別環境保全担当者会議の開催支援	—
	・ライフサイクルアセスメント(LCA)の導入・展開継続 1) 代表機種によるLCAの実施 2) LCA分科会活動を継続して実施、各事業体への展開実施	★★★	・ライフサイクルアセスメント(LCA)の導入・展開継続 1) LCA分科会活動を通じた各事業体への展開 2) 新機種へのLCA導入に向けた準備	P36
	・再生可能エネルギー(バイオ燃料)の使用拡大 ・作業機の電動化、ハイブリッド化の検討	★★★	・再生可能エネルギーの導入可能性の調査・検討 ・作業機の電動化、ハイブリッド化の試行・検討	—
	・社会的要求、業界動向の調査	★★	・社会情勢、業界他社動向の調査 ・グループ製品への導入可能性検討	—
	・各国の排気ガス規制に適合 ・低燃費型指定制度に適合(建機)	★★★	・排気ガス規制の遵守 ・省エネレベルの認証動向調査 ・グループ製品としての省エネレベル認証取得検討	—
	・2012年度500億円⇒2013年度597億円 ・新基準に基づく環境配慮商品の審査実施	★★★	・新基準に基づく「環境指向商品」および「環境配慮商品」の開発推進 ・環境商品の全体売上比率の拡大	P7-9
	・エネルギー使用量：原単位当たり20.3%削減 ・温室効果ガス発生量：原単位当たり8.8%削減 ・電力見える化システム導入による生産設備の省エネ推進 ・社内委員会による情報交換の実施	★★	・原単位当たり2005年度比11.7%(総量13.5%)以上削減 ・省エネ投資・電力見える化の推進 ・省エネ最新情報の入手、グループ展開 ・ピーク電力削減に向けた取り組みの促進 ・ヤンマー省エネ推進部会活動を通じた情報の共有化 ・ヤンマー省エネ中期計画・年度計画の設定	P36
	・モーダルシフト切替に関する情報収集強化	★★	・自社およびグループ製品・部品の物流データ集計範囲拡大	—
	・エネルギー使用量：原単位当たり4.5%削減(前年度比+0.9%) ・温室効果ガス排出量：原単位当たり3.5%削減(前年度比+0.8%)	★	・原単位当たり2009年度比30%(総量5.5%)以上削減(ヤンマーの所有物) ・集計開始年度から原単位あたり6%/年(総量1.1%/年)以上削減(集計を開始したヤンマーグループ各事業体)	P36
	・東南アジア海外現法を中心としたデータ集計範囲の拡大、集計方法の指導実施	★★★	・データ未集計の各事業体への指導 ・海外の温室効果ガス関連法令の動向調査	—
	・国内事業所：エネルギー使用量 総量で+6.3% 温室効果ガス発生量 総量で+17.3% ・海外事業所：製造会社を中心にデータ集計範囲を拡大	★	・原単位当たり2009年度比30%(総量20%)以上削減(オフィス) ・各国の温室効果ガス削減目標に基づく削減目標の設定(海外現法)	P36
	(主だった活動実績無し)	★	・自社の現状および他社動向の調査 ・資源投入量・廃棄物データの集計実施計画の立案・提示	—
	・原単位当たり52.4%削減	★★★	・上水資源投入量を、原単位当たり2005年度比36%以上削減	P37
	・原単位当たり6.4%削減	★	・紙資源使用量を、原単位当たり2005年度比18%以上削減	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
	・グリーン購入対象比率51.9%	★	・未集計拠点のデータ集計開始 ・グリーン購入対象品の把握	—
	・原単位当たり6.1%削減 ・最終処分率10.2% ・再資源化率86.9%	★★	・原単位当たり2005年度比18%以上削減 ・廃棄物等の削減に関する情報共有ソース(DB等)の構築 ・国内販売会社の廃棄物排出量データ把握・集計実現に必要なシステムの導入・管理体制の構築試行	P37
	・リサイクルに関する規格の見直し	★★★	・3R実施に向けた規格の制定、関係部門への周知	—
	・原単位当たり2005年度比28.4%削減 (参考：2011年度比11.7%削減)	★★★	・原単位当たり2011年度比6%以上削減 【2014年度に環境中期計画を変更し、基準年度を2011年度に変更】	P37
	・高濃度PCB使用製品の管理・処分継続	★★	・高濃度PCB使用製品の管理徹底・早期処分の検討 ・低濃度PCB使用製品の管理徹底・処分方法の検討 【2014年度に環境中期計画を変更し、処分目標を2025年度に変更】	Web
	・製品に含有される環境負荷物質の調査実施 ・取引先様、お客様からの問い合わせ対応	★★★	・REACH規制遵守 ・取引先、顧客等からの問い合わせへの対応	P37
	・グループ委員会活動を通じた情報共有の強化 ・最新の法令情報に基づくガイドラインの改訂	★★	・法令、条約の規制動向把握、グループ各社への情報展開 ・自主規制(グリーン調達ガイドライン、VIS規格)の最新版管理の実施	Web
	・使用禁止物質の切り替え継続 ・化学物質調査の継続、情報提供の実施	★★	・自主規制4物質および各種法令による使用禁止物質の切り替え促進	—
	・社会情勢・周辺環境に配慮した自主排出基準の見直し	★★	・社会情勢を踏まえた自主排出基準の定期的な見直し	Web
	・工場を中心とした植樹・緑化を推進 ・工場・周辺地域へ清掃活動を拡大	★★	・事業所および建物の緑地・環境施設面積の拡大 ・清掃活動を通じた地域住民との交流促進	P46
	・バイオマス・太陽光等の再生可能エネルギーを活用した製品開発、営業提案の実施 ・作業機の電動化検討	★★	—	—
	・ミツバチプロジェクトの継続 ・ベトナムの熱帯雨林再生プロジェクトへの参画等	★★	・生態系保存に貢献できる活動の計画・実施 ・事業活動・地域交流を生かした、新しい貢献活動の提案	P46
	・周辺清掃を中心としたボランティア活動の計画・実施	★★	・事業所当たり最低1件以上実施	P46-47
	・事業所・グラウンドの開放、住民招待、工場見学、親睦事業の協賛等の実施 ・ヤンマーミュージアム等を活用したイベント開催による社外貢献の実現	★★	・事業所の外部開放の機会提供(工場見学、厚生施設の一般利用等) ・親睦イベントの積極的な主催および協賛	P46

組織統治

人権・労働慣行

環境

公正な事業慣行

消費者課題

コミュニティ参画・発展

## 地球温暖化防止への取り組み

### CO<sub>2</sub>排出量の把握・削減に努め 地球温暖化防止に貢献しています

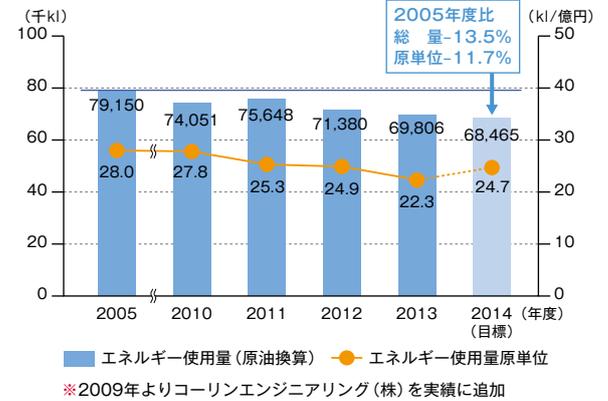
■ 製品のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量の把握と削減  
ヤンマーグループでは、LCA（ライフサイクルアセスメント）による製品のライフサイクル（原材料の調達から、製造、流通、使用、廃棄まで）における温室効果ガス（CO<sub>2</sub>）排出量の定量的把握・評価を進めています。2013年度はLCA分科会活動を通じて、グループ各社の代表製品でLCAによる温室効果ガス排出量の算定を行いました。さらに活動を深化しグループ各社の他の製品への展開に取り組んでいます。

■ 事業活動におけるエネルギーの効率使用とCO<sub>2</sub>排出量の削減  
ヤンマーグループでは、国内に展開する全生産事業体において、生産活動に使用する電力や燃料などあらゆる種類のエネルギーを効率的に使用する体制を取るとともに、省エネ設備への更新、試運転効率の改善・エネルギー再利用等の活動を通じて、CO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいます。

2015年度までの削減目標は、エネルギー使用量および効率使用の指標となる原単位で13%、CO<sub>2</sub>排出量も同じく13%に設定しています（いずれも2005年度比）。2013年度は、エネルギー使用量が前年度比約

1,500kl削減されたにもかかわらず、原子力発電所の稼働停止の影響で、CO<sub>2</sub>排出量が前年度比で約2,500t増加しました。

▶ エネルギー使用量・エネルギー使用量原単位



▶ CO<sub>2</sub>排出総量・CO<sub>2</sub>排出量原単位



## TOPICS

### ベトナムのディエンビエン省でのREDD+実証活動に参画

ヤンマーは、2013年から住友林業(株)およびアスクル(株)と共同で、国際協力機構(JICA)が推進するベトナムのディエンビエン省でのREDD+の実証活動に出資し、参画しています。

REDD+とは「Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries」の略語で、途上国の森林減少・劣化に由来するCO<sub>2</sub>排出の増加抑制を行うことです。また、「森林炭素ストックの保全および継続可能な森林経営ならびに森林炭素ストックの向上」を目指した国際的に森林保全をする取り組みです。

ディエンビエン省では、面積およそ34万haの森林が焼畑農業の拡大により年々減少していることから、参画企業3社はベトナム農業・農村開発省森林総局、ディエンビ

エン省とともに「持続可能な森林管理プロジェクト」に取り組んでいます。地域の住民にも参加してもらいながら、森林を守る組織づくりと保全活動、植林、果樹や野菜栽培支援、指導などを行っています。また、REDD+活動のモニタリングで、気候変動緩和策としての効果を農村レベルで実証しています。

2014年からは一般社団法人ヤンマー資源循環支援機構で管轄・運営し、2015年に現在の体制を一度終了しますが、JICAは2020年まで活動を継続していく計画です。



プロジェクトに参加した関係者や地域住民

## 環境負荷物質の削減・管理

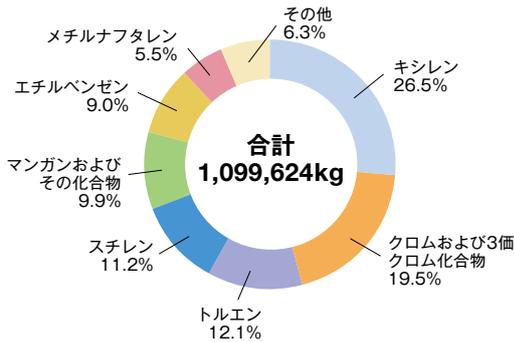
### 有害な化学物質や環境負荷物質の削減と管理に努めています

#### ■ 化学物質の排出削減

環境に配慮した製品開発と環境リスクの低減を図るため、PRTR法第一種指定化学物質の使用量の管理・排出量の削減に取り組んでいます。2013年度のPRTR法第一種指定化学物質の使用量は、基準年である2005年度比において、原単位で28.4%の削減を実現しました。

2014年度からは、PRTR法改正にともなう大幅な指定化学物質拡大があった影響を考慮して、基準年度を第三次中期計画の初年度にあたる2011年度に変更し、前年度比で原単位当たり2%の削減を達成していく方針です。

#### ▶ PRTR法第一種指定化学物質の取り扱い状況



※PCB保有状況、PRTR法第一種指定化学物質取り扱い状況のデータはWebサイトに掲載しています。

#### ■ サプライチェーン全体で環境負荷物質を管理

「グリーン調達ガイドライン」に基づき、取引先から供給される資材や部品に含まれる環境負荷物質の含有量の調査を2008年から継続的に行い、環境負荷物質の把握、削減を進めています。これらの情報は「製品含有環境負荷物質管理システム」にて一元管理され、グループ各社にて情報の共有を行っています。今後、ヤンマーの製品に含まれる環境負荷物質含有情報の管理をさらに進め、環境負荷物質の削減に努めていきます。

また、水銀、鉛等の化学物質については、自主規制物質として社内適応基準を定め、計画的に削減を推進しています。

#### ▶ 自主規制物質の一覧表

自主規制物質
物質は鉛およびその化合物、水銀およびその化合物、カドミウムおよびその化合物、6価クロムおよびその化合物

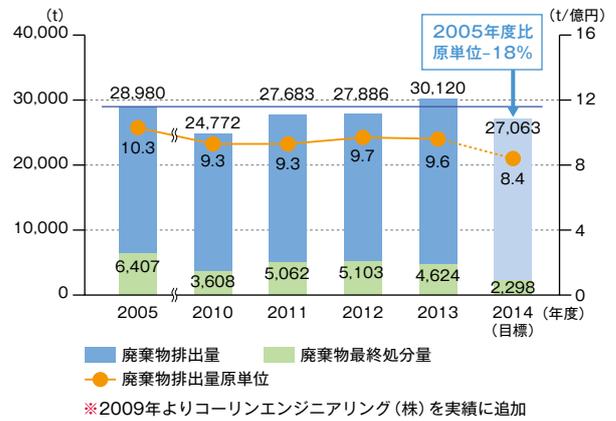
## 資源循環型社会への貢献

### 限りある資源の有効活用に向け省資源化に取り組んでいます

#### ■ 廃棄物の削減とリサイクルの推進

ヤンマーグループでは、生産工程における廃棄物発生量の削減に取り組むとともに、廃棄物の分別によるリサイクル化と有価物化を推進しています。各工場では分別を徹底するために廃棄物の収集場、各現場、事務所などに分別表を掲示するとともに、社員教育の実施やパレットのリターンナブル化など再資源化に取り組んでいます。

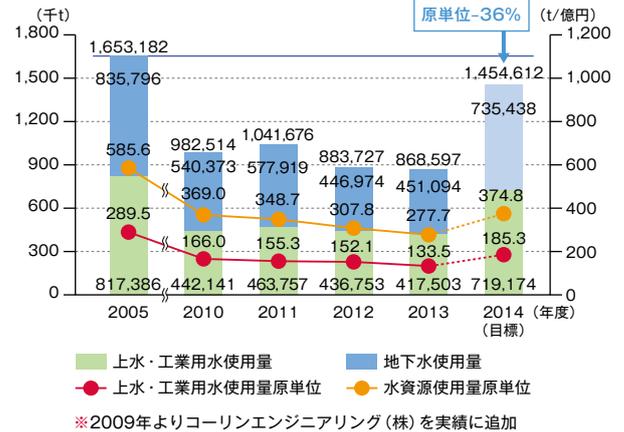
#### ▶ 廃棄物排出量および原単位と最終処分量



#### ■ 水資源使用量の削減

ヤンマーグループでは、省資源化への取り組みとして工場内における水の循環利用を推進しています。水資源使用量については、原単位で2013年度は2005年度比で32%削減することを目標としており、グループ全体では52.4%削減となり目標を達成しました。

#### ▶ 水資源使用量・水資源使用量原単位



# 徹底した企業倫理推進と 良好なパートナーシップ構築を進めています

## コンプライアンス

### 基本的な考え方

ヤンマーグループでは、経営トップはもとよりグループ社員全員に、企業倫理ならびに法令遵守意識を浸透させることがCSR活動のベースであると認識しています。

### 法務コンプライアンス委員会を設置し リスク低減活動を推進しています

2013年4月、ヤンマーグループリスクマネジメント委員会の中の専門部会として、法務コンプライアンス委員会を設置し、法務コンプライアンスに関わるリスク低減活動を継続的に推進しています。

### 内部報告制度「倫理の目安箱」の運用

ヤンマーグループでは2003年から内部報告制度「倫理の目安箱」の運用を開始し、2012年7月からは電話回線をフリーダイヤルにすることで、利用者の利便性向上を図りました。2012年度は28件、2013年度は22件の利用がありました。この電話による利用は約50%を占めています。

この窓口とは別に、グループの各組織から約40件の相談と報告が法務コンプライアンス委員会事務局に寄せられます。

内部報告（通報）案件については事実関係の調査を行い、コンプライアンス違反行為に当たるかどうかを判断します。違反であると認定した案件については、就業規則に照らして関係した社員を適切に処罰するとともに再発防止策を策定し徹底します。

内部報告制度の  
利用件数

22件

### コンプライアンス研修・啓発活動

コンプライアンス研修は毎年、新入社員と新任管理職全員を対象に実施しています。また、各事業所単位での研修や「独禁法・下請法」などのテーマ別研修も随時行っています。

啓発活動は社内のイントラネットを活用し、「グループ内で多く発生したコンプライアンス違反事例」や「海

外におけるタブー集」などを紹介し、企業倫理意識の高揚を図っています。

### 海外現地法人との定期的なコミュニケーション

海外現地法人の事業活動にもコンプライアンスの考え方を反映させるため、定期的にRHQ（リージョナル・ヘッド・クォーター）、海外現地法人の幹部やCSR担当者、リスク・コンプライアンス・法務関係その他をテーマに定期的に情報の交換および情報共有の場を設けています。



海外現地法人と定期的な情報交換を実施

### 法務コンプライアンス委員会の重点活動

時代の流れに即した法令の強化や価値観の変化に対応するため、2013年10月に「行動基準」を改訂し、冊子として全グループ社員に配布しました。さらに2014年に向け、e-ラーニングを活用した企業倫理意識の醸成を目指します。

## 購買における取り組み

### サプライヤーとの相互理解を深めるため さまざまな対話を進めています

### 購買方針説明会の開催

ヤンマーグループはサプライヤーとの相互理解を深めるため、年頭に国内外の主要サプライヤーに対して年度および中期における「購買方針説明会」を開催するなど、さまざまなコミュニケーション活動を展開しています。

2010年2月には5年間（2011～2015年）の原価低減目標を設定し、グループを挙げて目標に取り組むためサプライヤーからもコストダウンにつながるアイデアの提案を求めるとともに、商品機能の見直しや部品の

## 啓発活動を通して、コンプライアンス違反の未然防止を図っています

ヤンマーエネルギーシステムでは、事業内容との関連性が深い下請法の講習会を開催しました。当社の商流や取引内容に沿った分かりやすい内容で、下請法に対する社員の理解度も向上したと考えています。

下請法に限らず、日々の業務に関連する法律は「知らなかった」では済まされませんので、今後もこのような啓発活動を通じ、コンプライアンス違反の未然防止を図っていきます。



ヤンマー  
エネルギーシステム(株)  
企画部 企画グループ  
大西 孝典

共有化、生産性改善の取り組みなどへの協力を要請しました。



2014年度ヤンマー購買方針説明会の様子

### ■ 購買の基本方針

#### ● パートナーシップの強化

長期的視野に立ち、サプライヤーとの間で相互理解、信頼関係を深めています。

#### ● 安定供給

サプライヤーの経営状況・生産性・リスク回避体制・海外拠点からの供給などについて監査・指導を行い、パートナーシップに基づく供給量の確保と納期遵守に取り組んでいます。

#### ● 品質確保

サプライヤーに対する品質監査・指導、品質会議、新商品の初期安定管理、「品質重点管理制度<sup>\*</sup>」および「品質管理優良認定制度」を実施することで、納入部品のよりよい品質の確保を目指しています。

<sup>\*</sup>品質重点管理制度: 毎年、品質の評価が低いサプライヤーに対して特別な指導を行う制度

#### ● 原価低減

原価目標を掲げ、原価低減に取り組んでいます。

#### ● 法の遵守

社会の規範・法令およびその精神を遵守し、機密保持の徹底を図ります。

### ■ グリーン調達

「ヤンマーグリーン調達ガイドライン」を制定し、取引先と協働しながら世界各国で環境に配慮した安全・安心な部材の調達を推進しています。

取引先の選定にあたっては品質、価格、納期などに加え、環境マネジメントシステムを構築して環境保全活動に意欲的に取り組んでいる取引先を優先しています。

#### ● グリーン調達ガイドライン

<https://www.yanmar.com/jp/about/csr/green.html>

### ■ サプライヤーへの改善支援

ヤンマーグループの資材部では国内・海外のサプライヤーに対し、「Q:Quality (品質)、C:Cost (原価)、T:Time (時間)」の側面から毎年、数社を選定し改善指導を実施しています。また、2007年度から「品質改善」「生産性向上」「在庫低減」に向け、サプライヤー体質およびパートナーシップの強化をねらいとしたYWKS活動を展開しています。

## TOPICS

### ヤンマーグループにおける紛争鉱物への対応

アフリカのコンゴ民主共和国およびその隣接国から産出される一部の鉱物(タンタル・スズ・金・タングステン)は、当地の武装勢力の資金源になっているとして、「紛争鉱物」と呼ばれています。

国際機関であるOECDのガイダンスや米国「金融規制改革法(ドッド・フランク法)」は、「紛争鉱物」が製品に含まれていないかどうかをサプライチェーン全体にわたって確認する調査を企業に要請しています。

ヤンマーグループは人権・環境等の社会問題を引き起こす「紛争鉱物」を重要なCSR課題と認識し、「紛争鉱物」を使用しない方針を掲げ、サプライヤーの皆様にも「紛争鉱物」不使用に対する賛同と、調査への協力をお願いしています。

ヤンマーグループは、ドッド・フランク法1502条に係る最終規則で規定された紛争鉱物の使用に関するレポートを米国証券取引委員会へ提出する義務はありませんが、この義務を負う米国および日本の取引先企業からお問い合わせが寄せられ、2013年10~12月に一次サプライヤーへの調査を行いました。

CFSI<sup>\*</sup>の帳票を用いて調査を実施し、お問い合わせのあった各企業に結果を報告しました。2014年以降も継続して、サプライヤーの皆様とともにヤンマー製品からの紛争鉱物排除を目指した取り組みを進めていきます。

<sup>\*</sup>Conflict-Free Sourcing Initiativeの略称で、サプライチェーンにおける社会的責任および環境責任の促進と効率性の共有に取り組む非営利組織「EICC」と「GeSI」が設置した紛争鉱物問題に取り組む組織。

# 安全で高品質な 満足度の高い商品をお届けします

## 基本的な考え方

ヤンマーグループでは、世界中のお客様の課題解決を最優先に考え、共に課題を発見し解決策を提供していくことを目指しています。社員一人ひとりが社会的要求に応え、かつお客様の課題を解決する商品・サービスを迅速にお届けし、お客様からの信頼とご満足をいただくことを日々追求しています。また、TQM（総合的品質管理）活動のもと、QCサークルなどを通じて全社員が品質のさらなる向上に取り組んでいます。

製品の企画・開発、製造、販売、サービスなどの各段階では品質・安全確保に向けた体系的な活動も行っています。特に安全に関しては独自の社内安全基準を定め、国内外の法規制とともに遵守を徹底しています。新製品開発の各段階でも事前に危険性を評価するリスクアセスメント、複数の視点から設計を審査するデザインレビューなどを実施し、品質・安全の両面から厳しくチェックしています。

## 品質への取り組み

### 品質と安全確保に向けて 一貫した体制を確立しています

ヤンマーでは、各事業体の品質保証部門が窓口となって製品の企画・開発から製造、販売、サービスまで一貫した品質保証の体制を確立しています。

製品の安全確保のため各事業体に製品安全委員会を設置し、全社品質保証委員会を通じてグループ全体を統括しています。品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」は国内外の30事業体で認証取得しています。

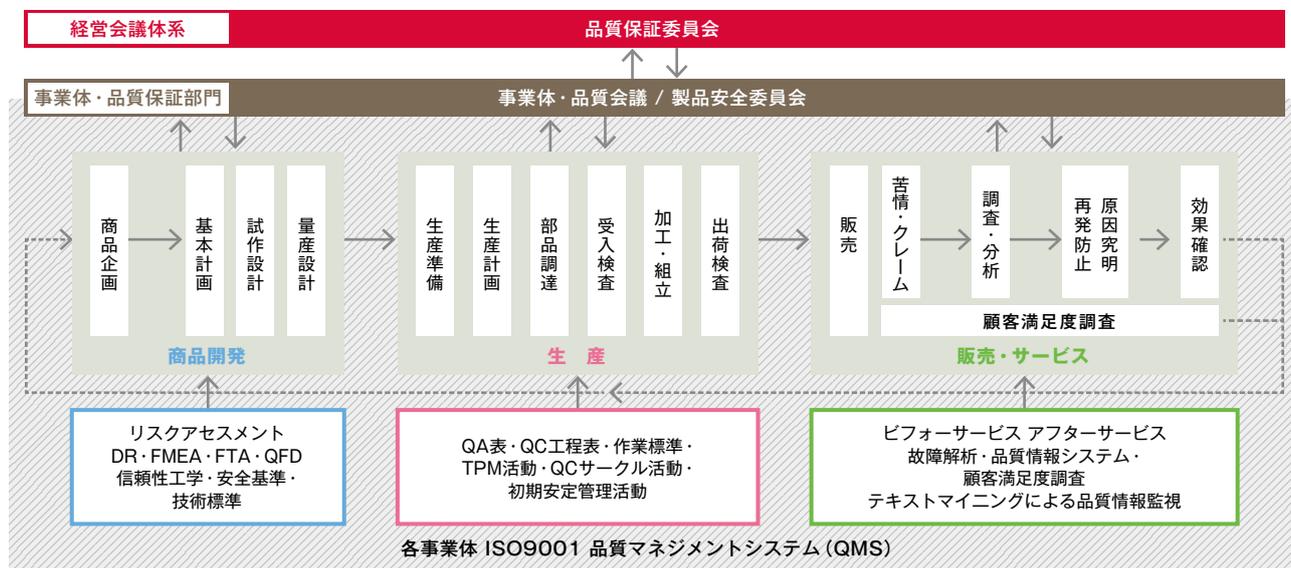
ISO9001の  
取得数

**30**事業体

### 品質情報を監視・分析し、 早期に重要な問題点を抽出します

品質上の問題点を早期に発見するため、国内の品質情報（YTIS）と海外の市場品質情報（e-Claim、Warranty-pro、OEM情報）を監視分析するシステムを構築し、迅速な情報収集と重要な問題点を抽出する作業の効率化を実現しました。

### ▶ヤンマーの品質保証体系



## 社員の声

### お客様からの改善要望を正確に伝え、品質改善に生かしています

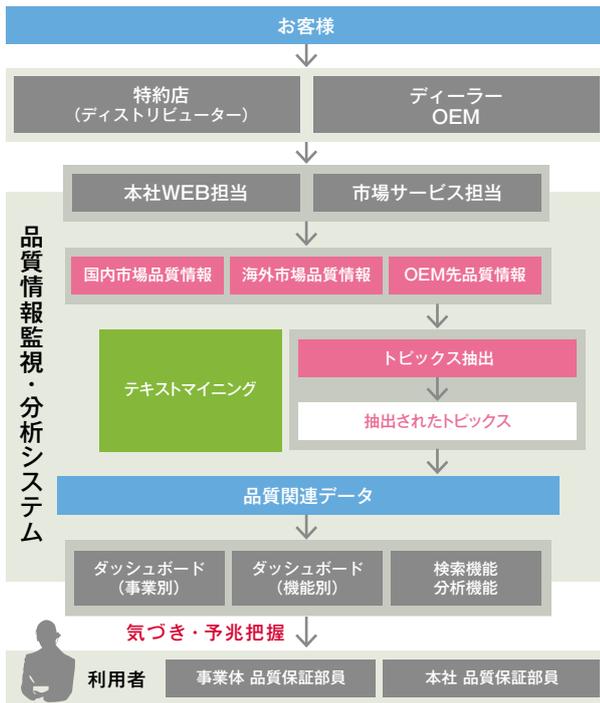
グローバル化が進むなか、ヤンマーのトラクターも世界中のお客様に使って頂いています。作業環境や使われ方はさまざま、その中で起こる不具合や要望は品質情報や改善要望としてフィードバックされます。そのような情報を現地法人と確認し、正確な情報を開発・生産部門へ伝え、生産機の改善、次期開発機に反映させるなど品質改善に努めています。



ヤンマー(株)アグリ事業本部  
品質保証部  
専任課長  
高橋 彰

そのなかで明らかになった品質面の問題は、内容を詳細に分析したうえで各担当事業部に向けて関連情報をフィードバックしています。

#### ▶ 品質情報監視・分析システム



## リコールへの対応

製品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に製品回収ならびに製品の交換、改修(点検、修理等)を迅速に実施しています。製品リコールに関しては関係機関<sup>※1</sup>に報告するとともに、ヤンマーのホームページ上に情報を開示し、必要によっては新聞紙上にリコール社告を行い、実施率の向上を図っています。

#### ▶ リコール件数の推移<sup>※2</sup>

年度	2009	2010	2011	2012	2013
リコール件数	8	7	5	8	6

#### ▶ 品質に関する重要なお知らせ

<https://www.yanmar.com/jp/important/index.html>

※1 国土交通省、経済産業省、農林水産省、日本船舶工業会など

※2 国交省リコール・改善対策および消安法に基づく製品リコールの報告件数

## お客様満足

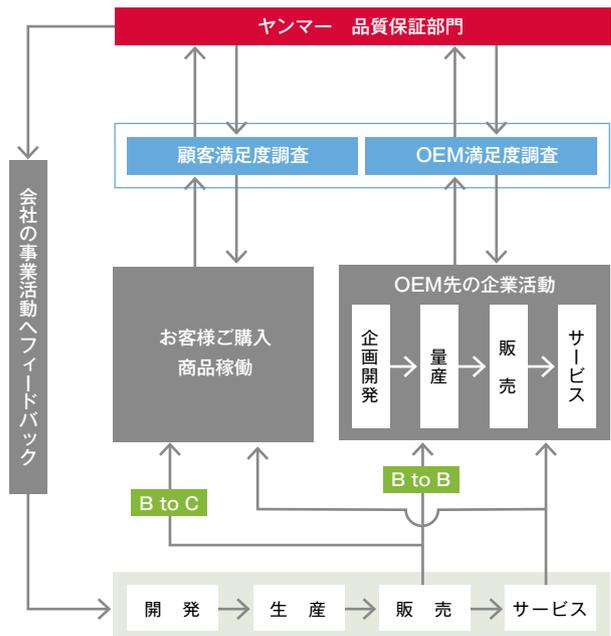
### お客様の声を的確にとらえ 販売やサービスの充実と向上に生かします

ヤンマーでは、毎年お客様を対象とした営業・サービス・商品についてのアンケート調査や、無料点検記録簿付き保証書の発行などを通じてアフターサービスの向上に取り組んでいます。

例えば、OEM先への「顧客満足度調査」では、国内外のOEM顧客に「商品力」「技術サポート力」「顧客対応力」「品質」「総合評価」の5点を質問し、回答結果を分析して、“お客様視点による商品づくり”“お客様へのレスポンス向上”“顧客課題の解決力およびスピード向上”につなげています。

お寄せいただいたご意見やご要望を新商品の企画・開発に反映させることはもちろん、販売やサービス面の充実と向上に生かしています。また、お客様の声を的確に把握し、お客様の収益拡大につながる取り組みを実践しています。

#### ▶ お客様満足度調査の概念図



## 「地域社会と共に歩み、共に生きる」を基本に 独自の社会貢献活動を展開しています

### 災害復興支援活動

#### 陸前高田市で新入社員が 復興支援ボランティアを行いました

ヤンマーアグリジャパン東日本カンパニーは、2014年度新入社員研修として、東日本大震災の被災地・陸前高田市で復興支援ボランティア活動を行いました。シカやハクビシン等の動物の被害から稲を守るため、地元農家の方々に指導いただきながら約50km分の電気柵を3日間かけて設置しました。

震災で岩手県沿岸地区における農地の60%が被災するなか、陸前高田市広田半島小友地区では90haもの農地が被害を受け、現地では農地の復興を目指して農事組合法人サンファーム小友が設立されました。米や飼料米の作付け開始に合わせ、鳥獣被害から農作物を守るための防護柵を設置することになったものの、組合員の皆様の高齢化や、防護柵の設置が重作業であることを考慮し、このたびの支援につながりました。

農家の方々はもちろん、参加した仲間同士で力を合わせて作業を終えた新入社員たちは、この活動を通じて地元生産者と交流を深めるとともに、東日本大震災からの復興を目指す沿岸農業の実情を学び取り、とても有意義な研修となりました。



作業開始前のミーティング



水田に沿って防護柵を設置



新入社員3~4名のグループごとに作業

#### 参加者の声

#### 現地農家の方々と一緒に、鳥獣被害防止の防護柵を設置しました

私たちは岩手県陸前高田市で復興支援活動を行いました。陸前高田市では稲がシカなどの野生動物に食べられる被害に遭っており、現地農家の方々と一緒に水田に防護柵を設置しました。

震災から3年の月日が経ち、急ピッチで復興工事が行われていましたが、津波の被害を受けた建造物はまだ多く残されており、完全復興にはまだまだ時間が必要となりそうでした。

しかし、一緒に作業をした現地の方々は後ろを振り返るのではなく、しっかりと前を向き、自分の街は自分たちの手で復興をするという強い意気込みを感じました。

私は7月に岩手県に配属され、これも何かの縁であると考えています。今後も見守るだけでなく、積極的に復興活動へ携わっていきます。



ヤンマーアグリジャパン(株)  
東日本カンパニー  
販売部  
金子 太一

## セレッソ大阪のホームゲームで 福島県産の農産物を支援しています

東日本大震災の被災地・福島県の農業復興支援を目的に、福島県、JA全農福島とともにセレッソ大阪のホームゲームにおいて、福島第一原発事故の風評被害を払拭するキャンペーン「ヤンマーサポートマッチ『がんばっぺ!! 福島』」を2013年から展開しています。

このキャンペーンは、福島県の農業再建に取り組む生産者などにスポットを当てたテレビ番組『食メキふくしま』（福島放送制作）への提供を機会に企画しました。そして、セレッソ大阪を活用することで、サポーターを通じ支援の輪を一層広げていこうと考えています。

「がんばっぺ」とは福島弁で頑張ろうの意味で、その言葉どおり、試合会場のスタジアム周辺に特設ブースを設けて福島県産の桃や飲料水を販売したり、試合のハーフタイム中に福島県の生産者が農産物の安全性をアピールするメッセージを上映したりするなど、さまざまな支援活動を行っています。



試合前の記念撮影



スタジアム周辺の販売ブース

## 教育と文化への貢献

### 次世代の育成に向け さまざまな教育支援を行っています

#### ■ ヤンマー学生懸賞論文・作文募集

ヤンマーでは、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について自由な発想から論じていただくことを趣旨として、1990年から「学生懸賞論文・作文」の募集を行っています。

第24回となる2013年のテーマは「進化する農へ挑戦」でした。全国から論文72編、作文555編の応募があり、論文の部の大賞は「『いちば』を超えて～変革期の京野菜に見る都市農業再編主体に関する考察～」（京都大学経済学部経済経営学科4年・宮崎俊亨さん）、作文の部の金賞には「未来を開拓する経営者を目指して」（鹿児島県立農業大学校農学部野菜科1年・西國原由美さん）がそれぞれ選ばれました。



ヤンマー学生懸賞論文・作文の入選発表会での記念撮影

#### ■ 子ども絵画展

ヤンマーでは、子どもたちがふるさとの素晴らしさを発見することを通じて、水と土への関心を高めてもらうことを目的に、全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）、都道府県水土里ネット（都道府県土地改良事業団体連合会）が主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展に協賛しています。

第14回（2013年）には全国から8,650点の応募があり、入賞19点、入選118点、地域団体賞42点が決まり、ヤンマー賞には北澤祐人さん（長野県大町市立大町北小学校6年）の『稲かりをしている自分』が選ばれました。



ヤンマー賞受賞作品「稲かりをしている自分」

## ■教育支援活動 ～公益財団法人 山岡育英会～

初代社長の山岡孫吉は、世界の平和と繁栄・文化の向上に寄与する人材の育成を目的として1950年に財団法人山岡育英会を設立しました。当会の奨学金給付を通じて、これまでに5,300名以上が学業を修了し、社会の各分野で活躍しています。

2013年度からは、従来の国内の高校生・大学生・大学院生・留学生への奨学金給付事業に加えて、東南アジアでの奨学金給付事業を開始しました。学校に通いながらサッカーを続けることが経済的に困難な中学生を対象に、2014年度はタイ15名、インドネシア23名の新規奨学生を決定し、奨学生採用証書授与式を現地で行いました。

新規奨学生  
(海外)

38名



奨学生採用証書授与式(タイ)

### ■在籍者 (2014年8月現在)

大学院	留学生	学部生	高校生	国内計
31名	13名	1名	28名	73名
タイ	インドネシア	海外計		
30名	56名	86名		

※奨学生同士の研鑽と親睦を図るために、技術系大学院生の「研究発表会」や外国人留学生を対象とした「日本の世界遺産を巡る研修旅行」なども実施しています。

## ■スポーツ・文化活動への支援を通して社会への貢献を果たしていきます

### ■世界で愛されるサッカーを支援

サッカーは、言葉、人種、国境など関係なく、世界で最も人気のあるスポーツの一つです。ヤンマーは、1957年に自社でサッカー部を創設して以来、サッカーが与えてくれる「夢」「感動」「チャレンジスピリット」に共感し、その素晴らしい価値をさまざまな方々と分かち合ってきました。

その後、Jリーグの発足に合わせて「セレッソ大阪」というプロサッカークラブに生まれ変わり、ヤンマーは、

そのパートナーカンパニーとして20年余りの月日を共に歩んできました。

ヤンマーは、同クラブ所属であった香川真司選手を17歳のときからプロ選手として支え、海外へ渡った現在もサポートし続けています。香川選手が世界を舞台に活躍する姿は、グローバル市場でのいっそうの飛躍・貢献を目指す私たちヤンマー自身の姿とも重なり、大きな共感を覚えます。

さらに、世界で最も人気のある英国プレミアリーグ「マンチェスター・ユナイテッド」のスポンサー活動を通じて、さまざまなフィールドで世界最高の存在となることを目指し、これからも「夢を持つこと」、そして「絶え間ないチャレンジ精神」に共感する世界中の人々とつながっていければと考えています。



マンチェスター・ユナイテッドを  
オフィシャル・グローバル・パートナーとしてサポート

### ■長居陸上競技場ネーミングライツを取得

2014年3月、セレッソ大阪のホームスタジアムとしても長年親しまれていた「長居陸上競技場」と「長居第2陸上競技場」は、ヤンマーがネーミングライツを取得し、それぞれ「ヤンマースタジアム長居」「ヤンマーフィールド長居」に生まれ変わりました。

今後、Jリーグはもとより、サッカー日本代表戦や、世界陸上をはじめとするさまざまなスポーツ、音楽イベントなどに活用されていくことで、セレッソ大阪を応援し続けていただいている皆様はもちろん多くの人々に、関西で生まれ育った企業として「大阪を元気に！」という想いを積極的に発信していきます。



ヤンマースタジアム長居

## ■電気自動車のレーシングチームへ発電機を提供

ヤンマーは、電気自動車普及協会(APEV)による、レーシングチーム「Team APEV with モンスタースポーツ」に、レース車両の充電に必要とされる発電機を提供しました。

「地球環境保全と持続可能な社会の実現」というヤンマーと共通のテーマを掲げるAPEVは、1916年から続く伝統ある自動車レース「バイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム」の「電気自動車クラス」に2012年より参戦しています。

チームドライバーは「モンスタースポーツ」の田嶋伸博氏が務め、前回大会の優勝に続き、今大会も3位と健闘しました。米国コロラド州ロッキー山脈の標高4000mを超える過酷な環境で行われたレースを、ヤンマーの高効率でクリーンな発電機が支えました。



「Team APEV with モンスタースポーツ」に発電機を提供

## 農業の活性化

### 農家が直面する課題解決に向け 農業の活性化に取り組んでいます

#### ■会員制体験型農園「ヤンマー遊悠ファームとよの」を運営

大阪府豊能町の里山で農業体験が満喫できる直営の会員制体験型農園「ヤンマー遊悠ファームとよの」を2012年から運営しています。

農業者の高齢化や担い手不足が進むなか、遊休化する農地の増加が懸念されています。このような状況の打開と、国内農業を活性化するため、豊能町高山地区で遊休化の恐れのある農地を借りたうえで、農業生産および都市住民の農業体験を提供するモデル農場を目指しています。

約60aの農地のうち、稲作圃場は約30a、畑作圃場は約20a用意し、お米作り「田んぼでお米作り体験」と、野菜作り「体験型農園」の2つの体験コースが利用できます。年間を通して多彩なイベントを実施するとともに、当社独自の機械講習会や、大阪府、地元の方々と連携した講習会などを実施し、初心者の方にも楽しんでいただける内容です。

地域資源を活用した「ヤンマー資源循環農法」や、地域伝統野菜の栽培が体験できるなど、地域に根ざした農業体験施設を目指しています。



自然豊かな里山でお米作りを体験

## TOPICS

### ヤンマー遊悠ファームで新入社員研修を実施

ヤンマーの2014年度新入社員研修を「ヤンマー遊悠ファームとよの」で行いました。各部門に配属される前に、お客様である農業生産者を取り巻く環境について理解してもらうとともに、農作業の大変さとそれを省力化するための農作業用機械の意義について体感してもらうことを目的に実施したものです。

研修は2014年4月から5月にかけて、56名の新入社員が3班に分かれてそれぞれ2日間ずつ行いました。ヤンマーのトラクターや管理機の使い方を学んだり、地元生産者の方々の指導のもと圃場での草刈りや電柵張り、耕うんなどの農作業を体験したりしました。

地元の小学生と合同で行った田植えでは、新入社員が小学生一人に対しマンツーマンで面倒を見ながら作業を行うなど、人間力を養う良い機会ともなりました。

ヤンマーでは、新入社員全員がヤンマー製品に触れる機会の提供と、遊悠ファームのある豊能町への社会貢献活動にもつなげるこの研修を今後も継続していく予定です。



農業の基本を習得



棚田で実地作業を体験

## 社会貢献活動

### 国内の各地域に根ざした 支援・活動に取り組んでいます

#### ■「NPO法人 梅田ミツバチプロジェクト」の支援

ヤンマーは、社員の提案により2011年から始まった都市養蜂活動「梅田ミツバチプロジェクト」の支援を行っています。

ミツバチは都会の木々や草花の受粉を行い、実をつける一助を担います。実を目当てに野鳥が集まり、食べた実の種子を運び新たな緑の息吹が芽生えていきます。生態系の連鎖になくならないミツバチの役割を伝えながら、地域の緑化推進を続ける同プロジェクトの活動は、自然と共生して発展を続けるヤンマーの業態と共鳴する点もあり、ヤンマーが地元で行っているCSR活動との連携も行ってきました。

プロジェクトは2013年からNPO法人となって地元連携を強化しており、養蜂で採れたハチミツを地元店舗等で活用し、活動で得た収益を近隣の学校の緑化活動に還元する取り組みに着手しています。ヤンマーでは新社屋建設後に、再び養蜂場として屋上庭園内に巣箱設置場所を提供し、今後も活動協力を行っています。



屋上での養蜂活動



近隣小学校への植樹活動

#### ■「淀川『花は咲く』プロジェクト」の支援

ヤンマーは、大阪市北区役所、大阪青年会議所等と一緒にヤンマー本社近郊の淀川左岸の景観向上に取り組んでいます。2012年度から河川敷のゴミ拾いや石拾い、ヤンマートラクターによる耕うん等を継続して実施しており、2013年7月に北区の住民約200名とともに河川敷にコスモスの種をまき、9月に観賞イベントを行いました。

さらに、10月に菜の花の種まき、翌3月に菜の花が無事開花し、春には菜の花、秋にはコスモスという季節ごとの花が咲く淀川河川敷へと生まれ変わりました。当初は、不法投棄されたゴミと大きな石だらけで、

トラクターの刃も折れるような場所でしたが、見違えるように美しく変化しました。ヤンマーでは、今後も淀川河川敷の景観向上に協力していきます。



ヤンマーのトラクターで耕うん作業



菜の花が咲き乱れる河川敷

#### ■ 本社周辺の清掃活動や花火大会への協賛

— ヤンマー建機(株) —

ヤンマー建機は、2009年から2カ月に1回本社周辺の清掃活動を実施しており、毎回、有志で数十名が集まり勤務前の時間を利用して活動しています。また、筑後市近郊の花火大会への協賛も行っており、地域社会に参画し、地域の皆様に喜ばれる取り組みを企画・実行していきます。



清掃活動の様子

#### ■ 地域住民を招待して夏祭りを実施

— ヤンマー農機製造(株) —

ヤンマー農機製造は、本社・岡山工場で毎年夏祭りを行っており、2014年で27回目の開催となりました。従業員で運営する屋台やゲームコーナー、ご当地アイドルのライブなど毎回趣向を凝らした催しで地域住民と一緒に楽しんでいます。また、今回は夏祭り初めての試みとして工場見学会も行い、当工場の事業内容を紹介しました。



約1,000人の地域住民が来場し賑わいを見せた夏祭り

## 海外でもさまざまな地域で 社会貢献に取り組んでいます

### ■ 実習教育支援としてPRO Almereの生徒を職業訓練 — YANMAR EUROPE B.V. —

YANMAR EUROPEは、PRO Almereで学ぶ生徒たちを当社で職業訓練する取り組みを2010年から実施しています。PRO Almereは、知的障がいを持つ生徒たちに中等学校程度の教育を提供する学校です。当社での訓練は、卒業後の就業に備えて実践的な技術や社会性を身に付けてもらうことを重視したプログラムです。

倉庫での梱包作業や掃除を学ぶ短期訓練と、フォークリフト等を使うオーダーパーッカーの運転資格を取得する約半年の訓練とに分かれており、多くの生徒たちにとって就業前の重要な学習期間となっています。

### ■ 台風による農業復旧支援として農業省にポンプを寄贈 — YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD. —

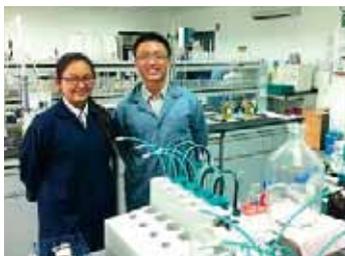
YANMAR ASIA (SINGAPORE) は、台風で被災したフィリピン・東ビサヤ地域の農場復旧を支援するため、販売代理店を通して農業省にヤンマーのウォーターポンプ「YDP30N」36台（234万ペソ相当）を寄贈しました。大変な被害状況のなか、被災された農家が農業を再開できるよう、今後もヤンマーとしてできることを支援していきます。



贈呈セレモニーの様子

### ■ 地元の大学生を対象にインターンシップを実施 — YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTER SDN. BHD. —

YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTERは、2013年9月から3カ月間、マレーシアサバ大学で化学を学ぶ学生2人をインターンシップで受け入れ、当社の研究室で実際の産業トレーニングを行いました。



インターンシップに参加した学生

### ■ 地元自治体・組合と協力して農機技能研修を実施 — 洋馬農機(中国)有限公司 —

洋馬農機(中国)は、2013年9月、無錫市農機管理局・総組合に協力し、当社で『「洋馬杯」第4回農機技能研修』を実施しました。当社が無償で無錫地区6県・区の26名の農機サービス人員の研修を行い、無錫地区全般の農機サービス力の向上に貢献しました。



農機技能研修を実施

### ■ 地元の教師を対象にした学外研修プログラムを実施 — TUFF TORQ CORPORATION —

TUFF TORQは、2014年6月、地元のさまざまな学校の教師3名を当社製造工場に迎え入れ、学外研修プログラムを実施しました。参加者には製造業に接してもらうことを通じて、地元の製造会社にはどのような技能が必要か、価値ある情報を直接得てもらう良い機会となりました。



工場で学外研修を行う地元の教師

### ■ 高校修了認定資格プログラムなど 地元住民の教育支援に貢献

#### — YANMAR AMERICA CORPORATION —

YANMAR AMERICAは、非営利団体「Advance Adairsville」と提携して、2013年からAdairsville市民を対象にGED（高校修了認定資格）プログラムの取得を通じた教育支援を実施しています。Adairsville市では高校の中退率が州全体の平均を上回っており、GEDの取得を促すことで就業の道を開くことができます。

プログラムには144名が参加し、このうち37名の生徒が受験し全員がGEDを取得しています。また、11名が既に大学に入学するなど大きな成果を挙げています。なお、プログラムの運営にはYANMAR AMERICAから2名がボランティアで参加しています。



GED卒業式に出席した生徒たち

# 会社概要 Corporate Profile

## 会社概要

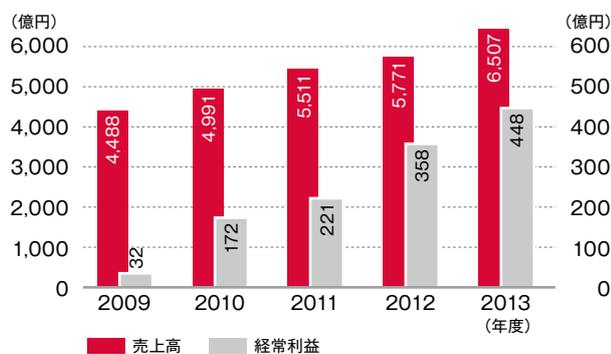
社名……………ヤンマー株式会社  
 本社……………大阪市北区茶屋町1番32号  
 YANMAR FLYING-Y BUILDING  
 東京支社……………東京都中央区八重洲2-1-1  
 創業……………1912年(明治45年)3月  
 資本金……………63億円  
 代表取締役会長兼社長……………山岡 健人  
 売上高(2013年度)……………6,507億円(連結) 3,386億円(単体)  
 従業員数(2014年3月31日現在)……………16,678名(連結) 3,313名(単体)



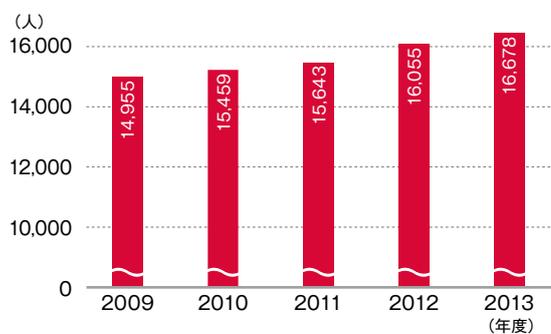
YANMAR FLYING-Y BUILDING

## 財務ハイライト

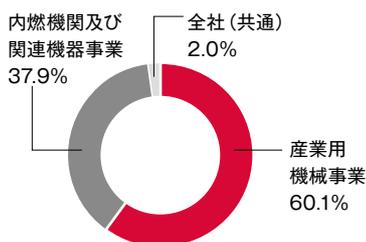
売上高・経常利益の推移(連結)



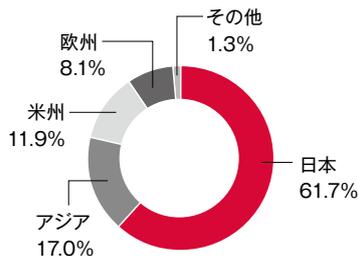
従業員数の推移(連結)



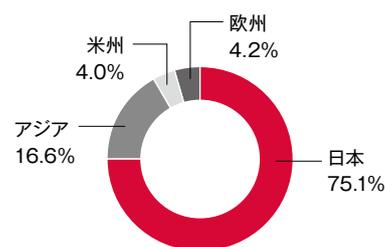
セグメント別 売上高比率 (2013年度)



地域別 売上高比率 (2013年度)



地域別 従業員比率 (2014年3月31日)



# ヤンマーグループネットワーク

## 拠点一覧

### ヤンマーホールディングス株式会社

本社

### ヤンマー株式会社

本社

東京支社

中央研究所

#### ■ 小形エンジン事業本部

- びわ工場 ● 木之本工場
- 大森工場 ● 永原工場 ● 長浜

#### ■ 特機エンジン事業本部

- 尼崎工場

#### ■ マリン事業部

- 塚口工場

#### ■ アグリ事業本部

#### ■ ヤンマーモスクワ駐在事務所

#### ■ ヤンマー株式会社ベトナム農業研究所

#### ■ グローバル研修センター

#### ■ ヤンマーミュージアム

## グループ会社一覧

### 国内関係会社

#### アグリ事業

- ヤンマー農機製造株式会社
- ニューデルタ工業株式会社
- 共立イリゲート株式会社
- ヤンマーアグリジャパン株式会社
- ヤンマーグリーンシステム株式会社
- ヤンマーヘリ&アグリ株式会社
- ヤンマーアグリイノベーション株式会社
- 文明農機株式会社

#### 建機事業

- ヤンマー建機株式会社

#### エネルギーシステム事業

- ヤンマーエネルギーシステム株式会社
- ヤンマーエネルギーシステム製造株式会社
- コーリンエンジニアリング株式会社

#### 船用事業

- ヤンマー船用システム株式会社
- ヤンマー造船株式会社

#### コンポーネント事業

- 株式会社神崎高級工機製作所

#### エンジン事業

- ヤンマーキャストテクノ株式会社
- ヤンマーエンジニアリング株式会社

#### その他

- ヤンマー沖繩株式会社
- ヤンマー産業株式会社
- ヤンマークレジットサービス株式会社
- ヤンマー物流サービス株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- 株式会社ヤンマービジネスサービス
- ヤンマーテクニカルサービス株式会社
- セイレイトータルサービス株式会社
- 興亜株式会社
- 八重洲地下街株式会社
- セイレイ興産株式会社
- 大阪サッカークラブ株式会社
- ヤンマー資源循環支援機構
- 公益財団法人 山岡育英会
- ヤンマー健康保険組合
- ヤンマー企業年金基金
- ヤンマーアグリジャパン企業年金基金
- ヤンマーシンビオシス株式会社
- 株式会社eスター

### 海外関係会社

#### 北米・中南米

- YANMAR AMERICA CORPORATION
- TUFF TORQ CORPORATION
- TRANSAXLE MANUFACTURING OF AMERICA CORPORATION
- MASTRY ENGINE CENTER LLC, A YANMAR COMPANY

- YANMAR SOUTH AMERICA INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.

#### 欧州

- YANMAR EUROPE B.V.
- YANMAR MARINE INTERNATIONAL B.V.
- YANMAR ITALY S.p.A.
- YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE S.A.S.
- YANMAR R&D EUROPE S.R.L.
- YANMAR INTERNATIONAL EUROPE B.V.
- YANMAR BENELUX B.V.
- YANMAR NORGE A.S.
- YANMAR SVERIGE A.B.
- YANMAR EQUIPMENT IBERICA S.L.
- YANMAR RUS LLC.
- VETUS B.V.

#### アジア

- 洋馬発動機(上海)有限公司
- 洋馬発動機(山東)有限公司
- 洋馬農機(中国)有限公司
- 哈爾濱洋馬農業機械有限公司
- YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY (KOREA) CO., LTD.
- YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD.
- YANMAR S.P. CO., LTD.
- YANMAR CAPITAL (THAILAND) CO., LTD.
- P.T. YANMAR DIESEL INDONESIA
- P.T. YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA
- P.T. YKT GEAR INDONESIA
- PT. YANMAR INDONESIA
- P.T. KANZAKI TJOKRO MACHINE TOOLS INDONESIA
- YANMAR INDIA PRIVATE LIMITED
- YANMAR KOTA KINABALU R&D CENTER SDN. BHD.
- YANMAR INTERNATIONAL SINGAPORE PTE.LTD.
- YANMAR ENGINEERING (HK) CO., LTD.

## 編集にあたって

本報告書は、ヤンマーグループを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様へ、当社グループのCSRに対する考え方や取り組み状況、2013年度の実績を報告し、双方向のコミュニケーションを通じて活動内容の向上につなげることを目的として、毎年発行しています。

掲載情報は、当社グループにとっての重要性と社会にとっての重要性の観点から選定し、ISO26000\*の中核主題に沿って掲載しています。数値・データ等の詳細や過去の活動内容などは当社Webサイトに掲載しています。

\*ISO26000は、2010年11月に国際標準化機構より発行された社会的責任に関する国際規格で、組織の持続的な発展への貢献を支援することを意図したガイダンスです。

#### ■ 参考にしたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」  
GRI「サステナビリティリーディングガイドライン第3版」  
ISO26000

#### ■ 報告対象時期

本報告書の活動内容、データは、2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日)実績を原則としていますが、一部には、2014年度の事項についても報告しています。

#### ■ 報告対象組織

基本的には、ヤンマーグループ全体とします。ヤンマー株式会社のみ、もしくは特定の地域や関係会社に限定される事項の報告については、本文中にその旨を明記しています。また、本報告書で「滋賀地区」とは、滋賀県一円で小形エンジンなどの生産をしている、びわ工場、木之本工場、開発・試験などを行う長浜サイト、精密機器を生産している大森工場、永原工場を表します。「尼崎地区」とは、兵庫県尼崎市で大形エンジンなどの生産をしている尼崎工場、船用エンジンを生産している塚口工場を表します。

■ 報告書発行 2015年1月(次回発行: 2015年11月予定)

# YANMAR

お問い合わせ先

## ヤンマー株式会社

人事総務法務ユニット  
CSR部 リスクマネジメントグループ  
〒530-8311 大阪市北区茶屋町1番32号  
YANMAR FLYING-Y BUILDING  
Tel:06-6376-6258 Fax:06-6373-9272  
<https://www.yanmar.com>

